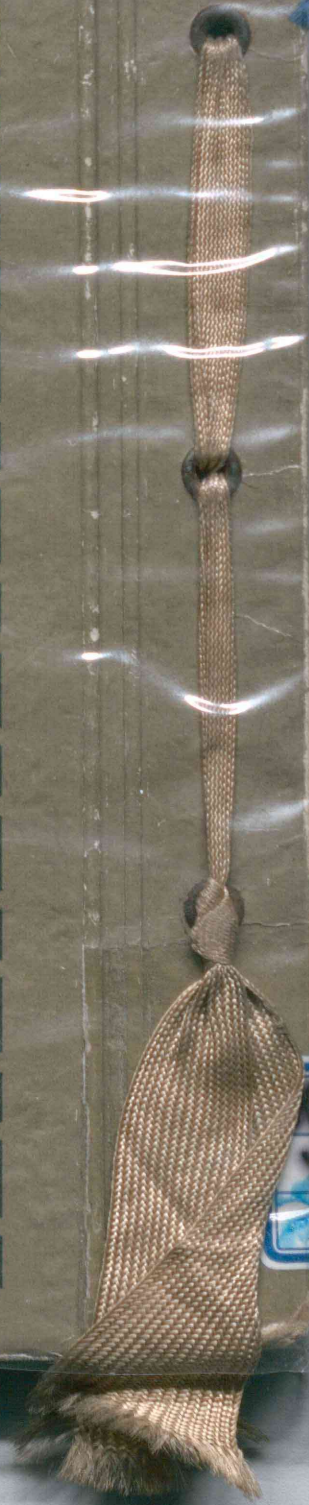


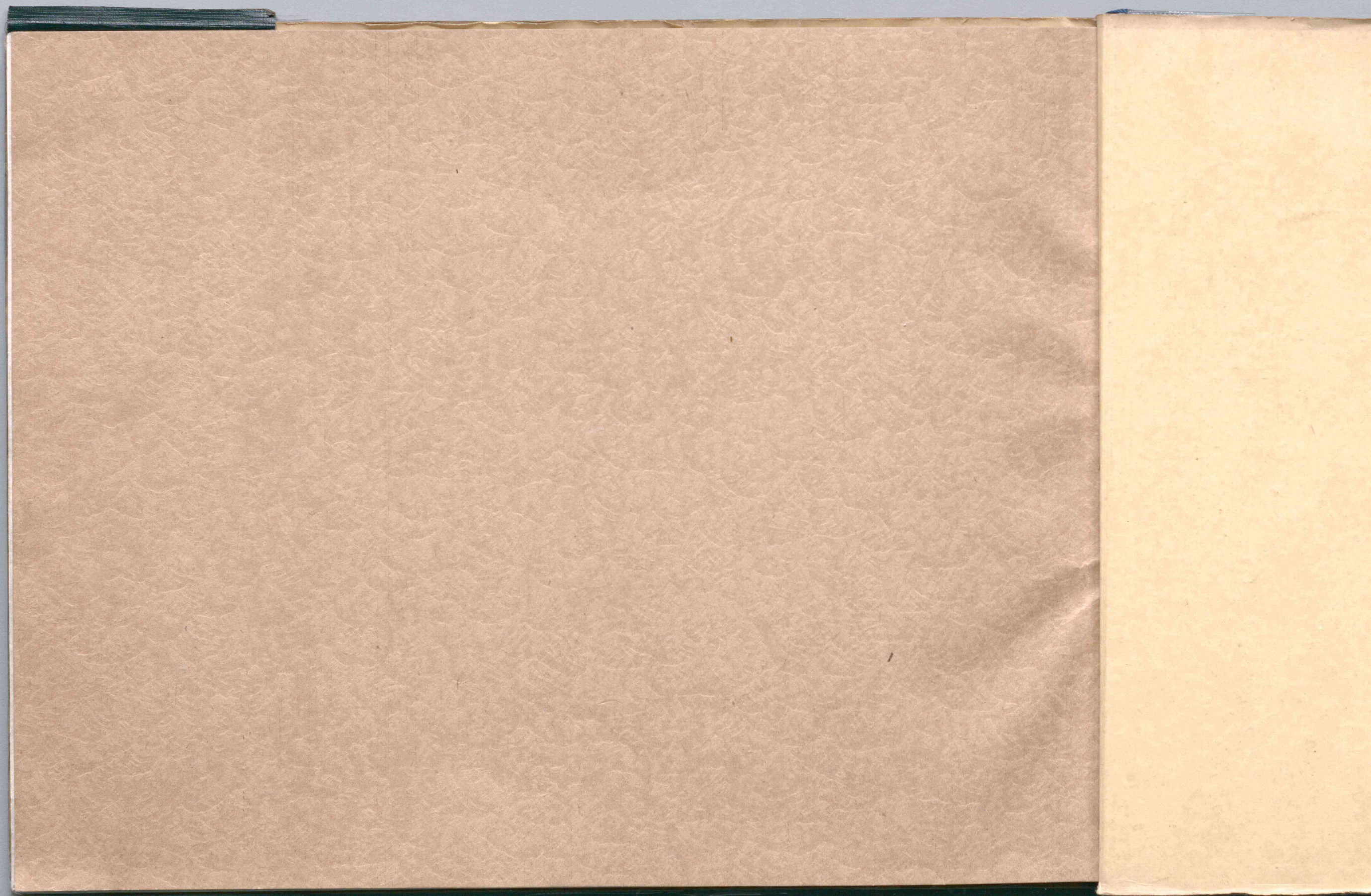
長崎海軍飛行紀念會真帖



第十五聯隊







K396
V49

步兵第十五聯隊歌

將校志願

一 三山天に連りて

秀麗に地は甘く立わし

坂東武士は血を流して

立つ上州健男子

二 早急濃き初田城

聯隊は築水で

王懐は師の勅を

勲功の唐文を

三 飛橋は初枝隊に

心只管武を練れ

柔き昔懐り水で

堅き誓と一筋に



四 輝九は夜に旅望清

望星は何のあり

軍謀は先謀りて

五 倫安は憂国に

異端の言は遠く

治亂の遷換して

我等は春の重き

步兵第十五聯隊歌

將校志願

一 三山天に連りて

刀水巖に激しゆく

秀麗に地はまじり立ちし

坂東武士に血を承けて

立ち上州健男子

穎の奇傷誇らん

二 軍色濃き初四城

遠く高き島州

聯隊くまに築水で

王權の師の勳を毎

日の歴史を重なりて

奉と精進を奉る

三 飛龍の如く枝葉に

君の稜威を誇らん

心只管武を練らん

榮ある昔懐け水で

堅き誓と一筋に

後國に任じやあそむ



四 彈丸は夜を破る

剣の霜を三台子

堅き我に何のあ

見たり確に満ちて

軍旗は光輝き

武勳を語り居らん

五 偷安は憂國に

平和の睡深き時

異端の雲は遠く

踏み出さず古相

治亂の遷換よく

我等は春の重き

珠玉

平聲少將



皇威照八紘

昭和七年九月於北滿海倫
步兵第五聯隊長菅野重吉

聖戰

役山大佐

聯隊作戰地方一般圖

北滿洲

一ノ分万百四

10 5 0 10 20 30 40

記 註

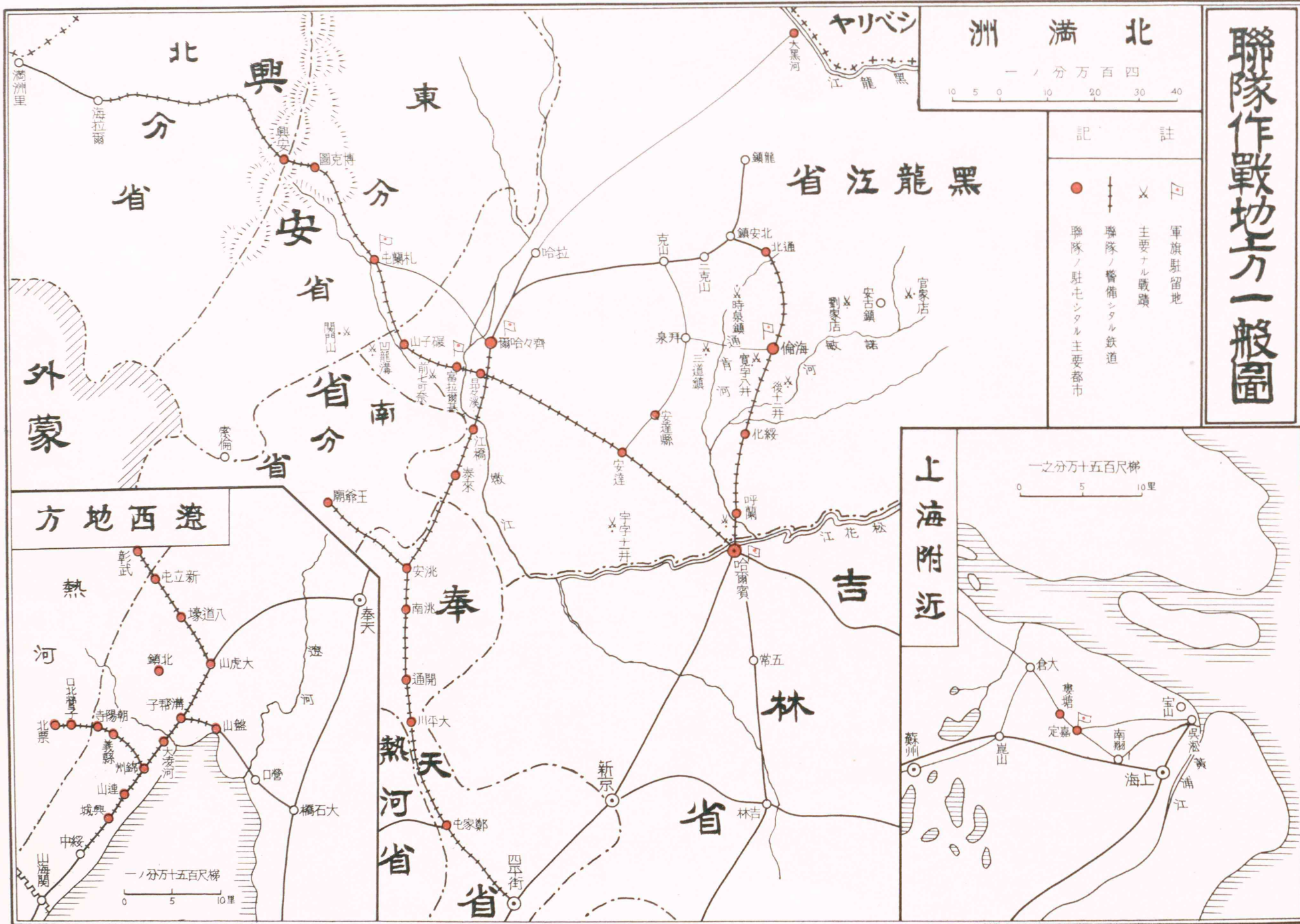
- 聯隊ノ駐屯シタル主要都市
- 聯隊ノ警備シタル鉄道
- × 主要ナル戦蹟
- 軍旗駐留地

黑龍江省

上海附近

一之分万十五百尺

0 5 10里



感狀

步兵第十五聯隊第二大隊(第五中隊(小隊欠)及第七中隊欠)
同 山砲小隊
同 通信班一部

右大隊長田中信男之ヲ指揮シ馬台山軍ヲ討滅スル目的ヲ以テ海倫東方正白旗諸部落附近ニ於テ數里ニ互ル廣地域ヲ警備シテアリシカ愈敵逆接ヲ知ルヤ七月二十六日決然全兵力ヲ劉家店附近ニ集結シ翌朝我陣地前至近ノ距離ニ於テ之ヲ包圍急襲シテ多大ノ損害ヲ與ヘ直ニ猛烈ナル追撃ヲ敢行シ之ヲ安古鎮東方大濕地ニ壓迫シテ更ニ大打撃ヲ與ヘ尚續イテ隨所ニ敵ヲ擊破セリ秋恰モ北滿ノ雨季ニ當リ連日ノ豪雨ノ爲前進頗ル困難ニシテ或ハ胸部ニ達スル河川ヲ徒涉シ或ハ馬脚ヲ没スル濕地ヲ横斷シ或ハ路ナキ密林中ニ敵ノ蹄跡ヲ辿ル等幾多ノ辛酸ヲ嘗メタリ又交通杜絶シテ糧秣ノ補給不可能トナルヤ時ニ食ヲ減シ時ニ又之ヲ廢スルニ至レルモ空中補給ニ依リテ僅ニ飢餓ヲ免レツツ追撃ヲ續行セリ

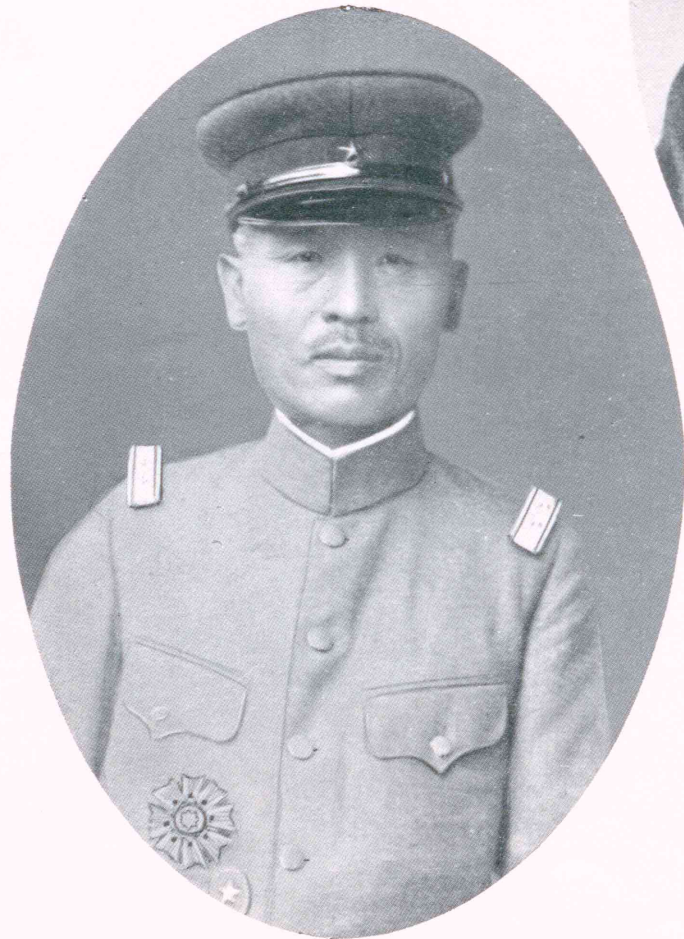
斯クシテ二十九日未明敵ニ追及スルヤ雨中ニ之ヲ奇襲シテ殘敵百三十餘名ヲ悉ク捕捉殲滅シ且兵器彈藥其他多數ノ貴重物件ヲ鹵獲シテ馬台山軍主力討滅ノ目的ヲ達成シ以テ擾乱セル黑龍江省治安回復ノ基ヲ爲セリ

惟フニ此ノ如ク偉大ナル成果ヲ收メタル所以ノモノハ友軍諸隊就中騎兵團、飛行隊等ノ奮闘ニ俟ツモノ尠カラスト雖大隊長以下意志極メテ鞏固ニシテ常ニ必勝ノ信念ヲ把持シ凡エル困苦ヲ凌キ欠乏ニ堪ヘ加フルニ巧妙適切ナル急襲及猛烈果敢ナル追撃ヲ斷行セルニ因ルモノニシテ寔ニ武功拔群ナリ

仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和七年八月七日

關東軍司令官 本庄繁相



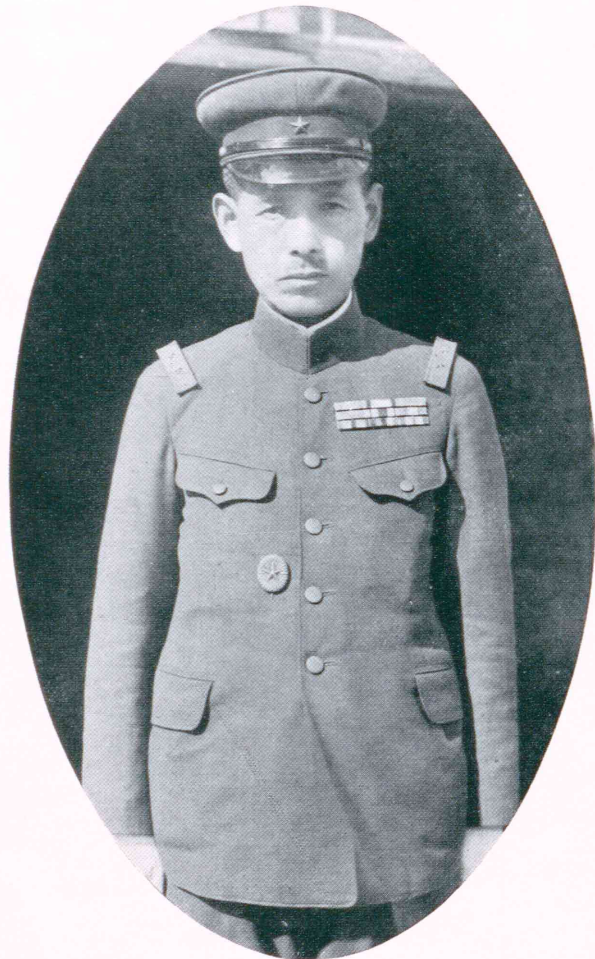
將中庄本 官令司軍東關前



帥元藤武故 官令司軍東關



將大川白故 官令司軍遣派海上



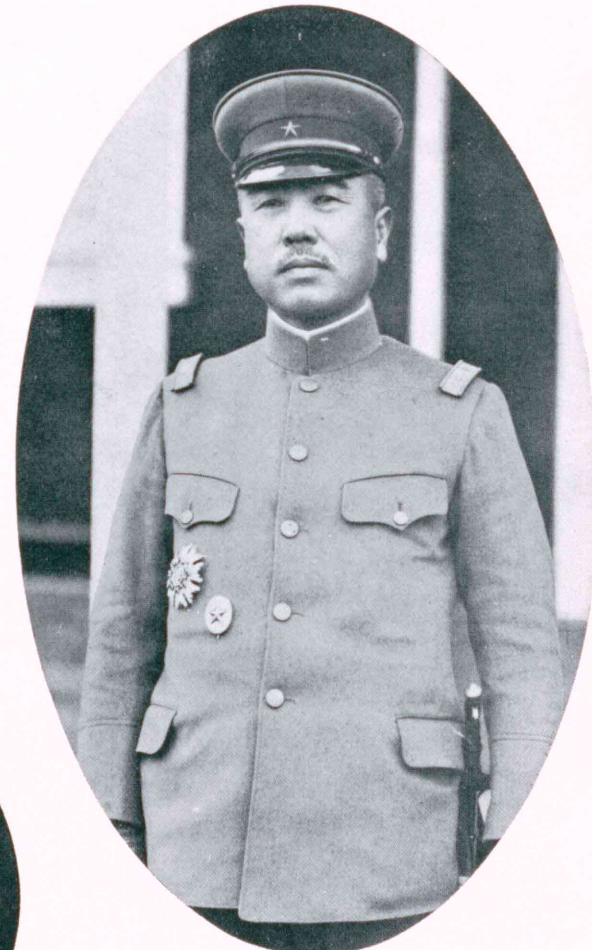
將 中 畑 長團師四十第



將中力々等 長團師四十第留守



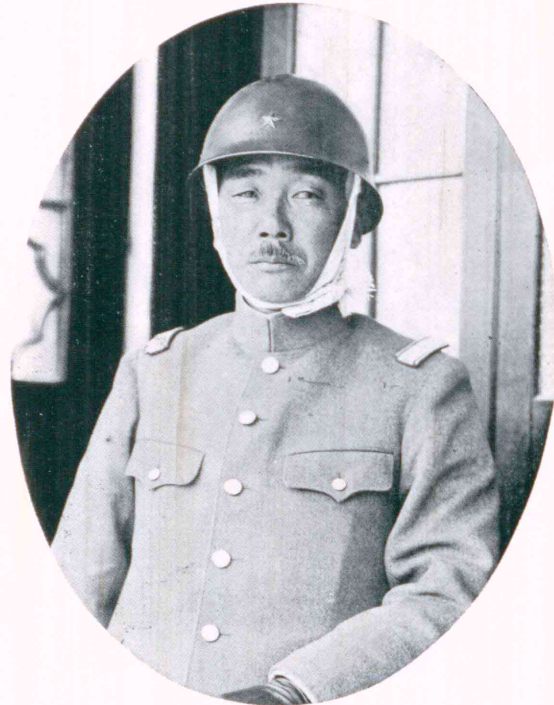
將中杉小 官令司留守長團師四十第



將中木松 長團師四十第前



義久山役 長隊聯



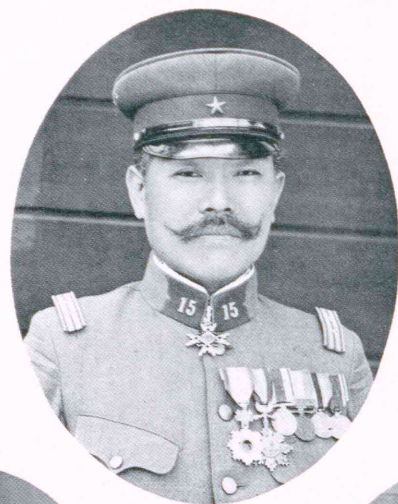
藏貞賀平 長團旅



二勅橋高 長隊聯前



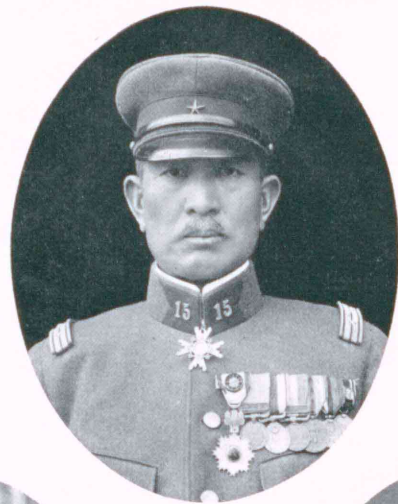
郎太重粕甘 長隊聯前



治謙田根曾 長隊守留



岩聚林 長隊守留



一濟藤齋 長隊充補



弘谷 長隊大一第官副隊聯前



男信中田 長隊大二第前



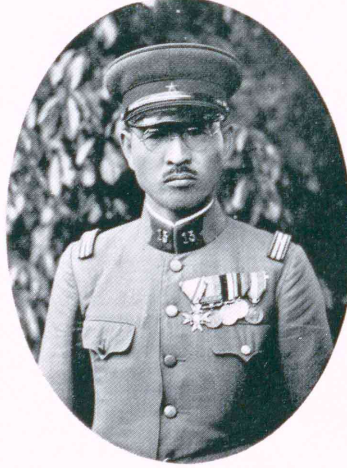
夫匡邊渡 長隊大三第前



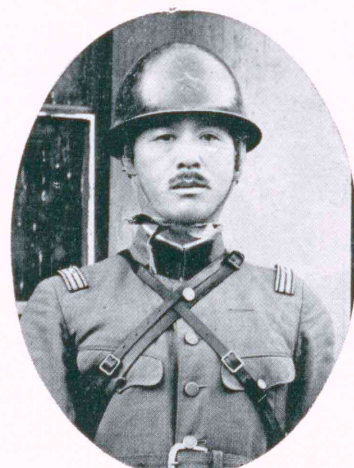
一茂村種 長隊大一第 長隊守留前



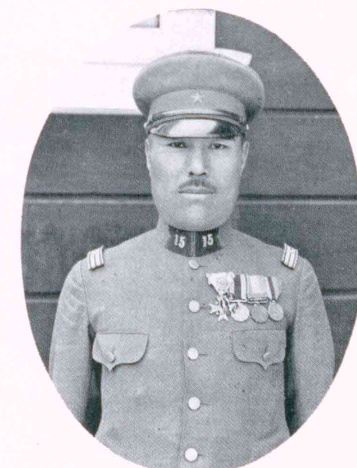
雄增田池 長隊大一第



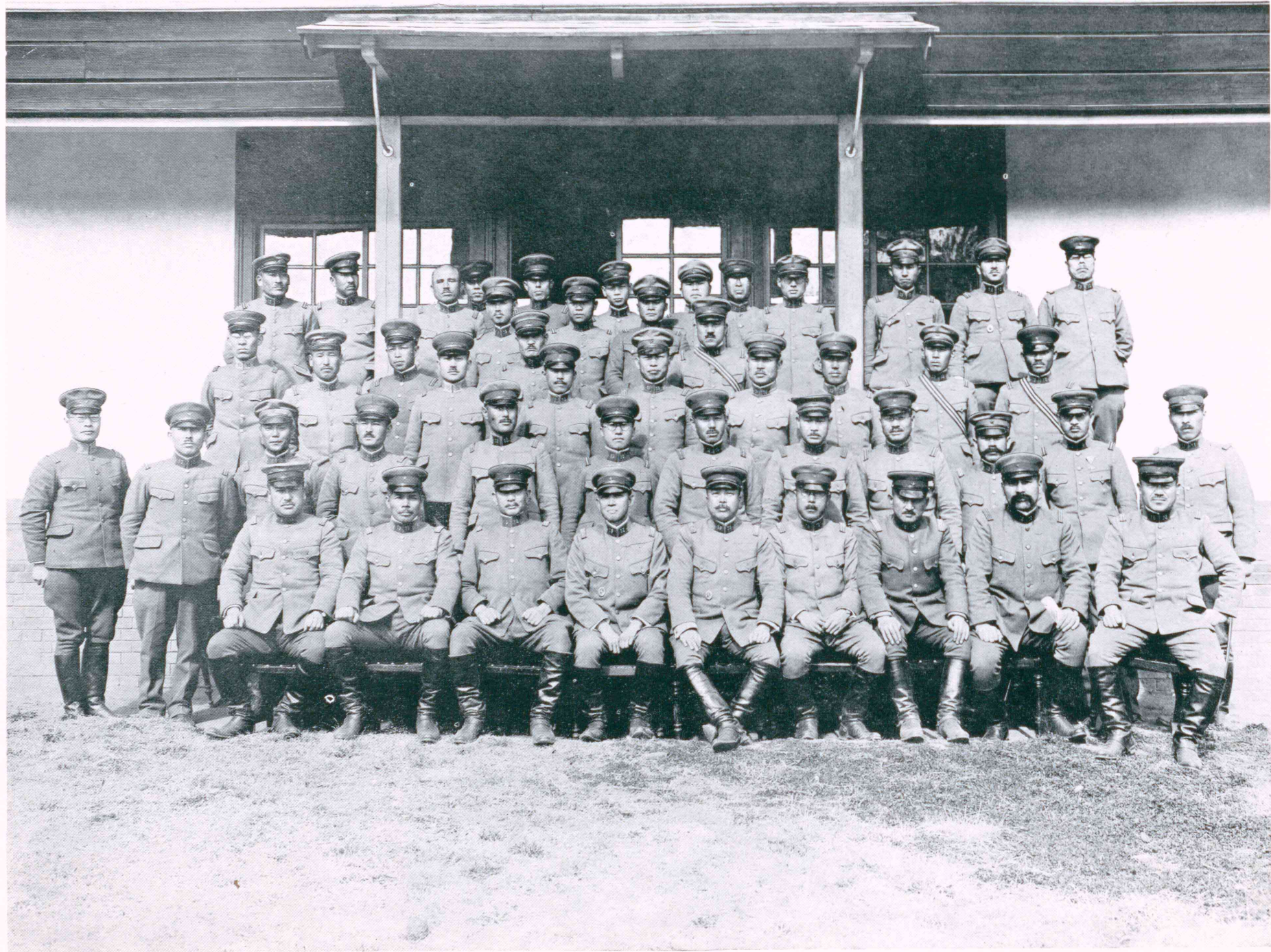
護島大 官副隊聯



四岸根 長隊大三第



一誠内谷 長隊大二第



團校將の時當令下員動



官當相全 校將部本隊聯



官當相全 校將部本隊大三第



官當相全 校將隊大二第



官當相全 校將部本隊大一第

令 下 員 動



覽台練教砲山下殿宮陽賀



遣差御官武從侍



式 列 分



(物荷の前部本) る 成 備 準



踏 雜 の 前 門 營

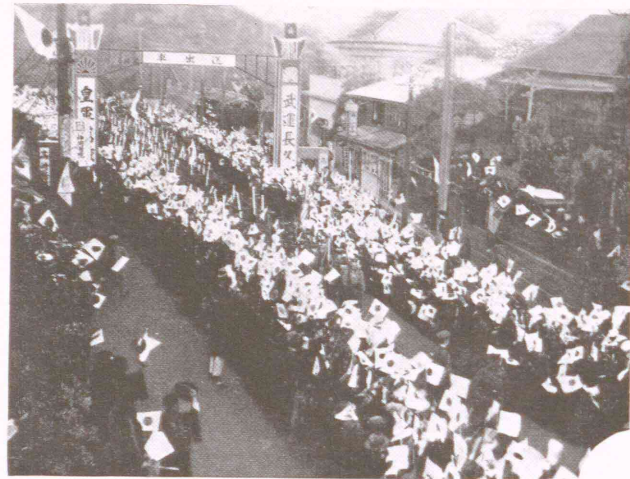


會 行 壯 の 同 合 民 官



營 入 の 員 召 應

出 征 其 一



國旗の波 歡呼の風



營門の前の大アーチ



軍旗の出門



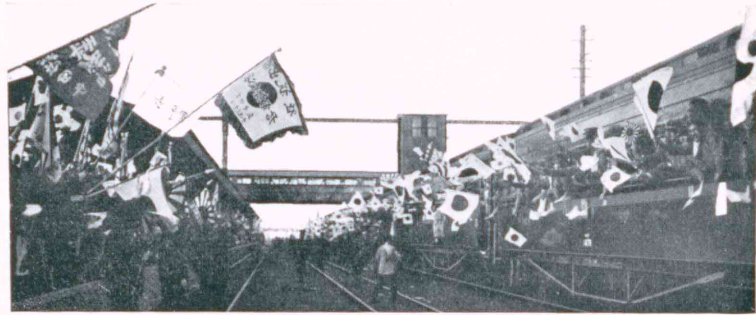
(二) 市内進行



(一) 市内進行

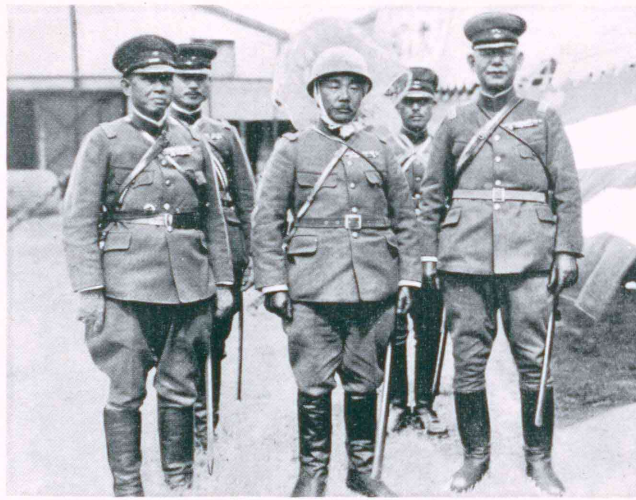


旗軍の上船

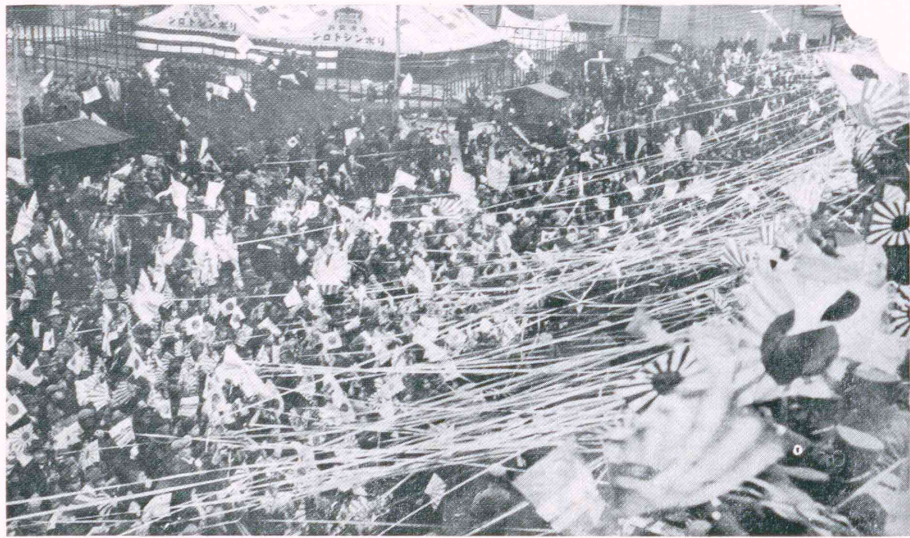


り送見るな大盛の線沿

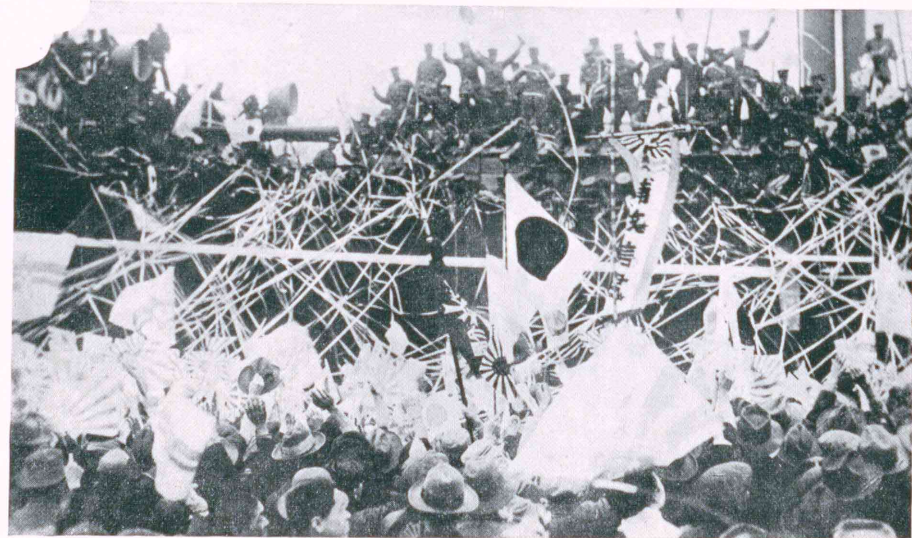
岡原歩五〇聯隊長
平賀族團長
高橋歩一五聯隊長



てに頭埠港阪大



二の共帆出

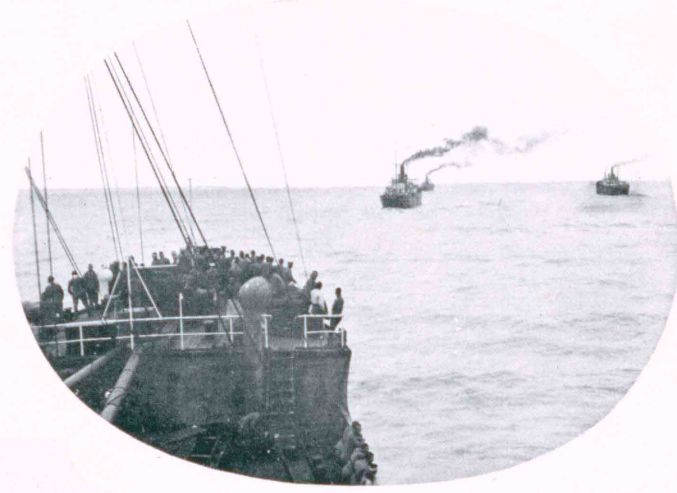


一の共帆出

陸上・海航

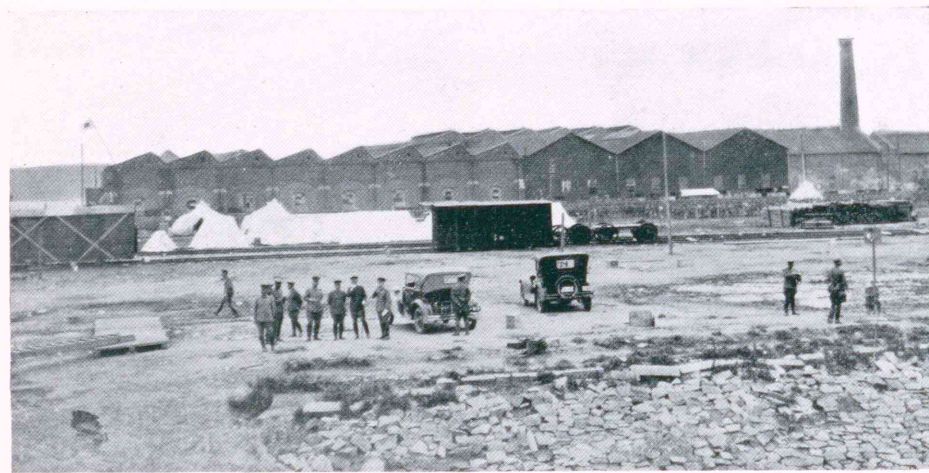


二の共揚陸

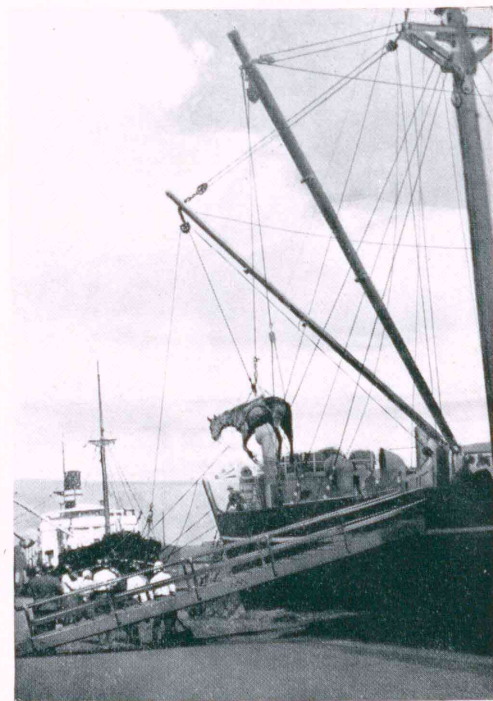


へ海上てみ街相艦軸

(板甲丸城天於) 日一の中船



頭埠港吳



一の共揚陸



(堂見浮の廟子孔) 景風南江

第一線警備の其一



(塘花於) 視巡線一第長隊聯
(隊中六第)



(隊中三第) 隊備守門岡石



(日四十月三) 城入定嘉



(塘婁於) 上 全



(門岡石) 哨歩の線一第

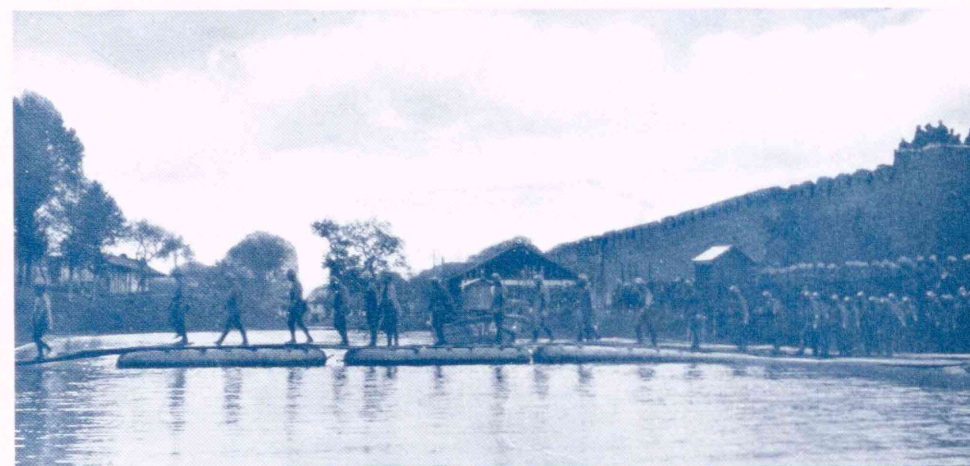


(塘婁於) 視巡線一第の長團旅
(隊大一第)

第一線警備の其二



敵前煙幕を利用して「クーリック」通過



（城壁は定城） クーリック通過



双輪車附機銃



（定城） クーリック通過



山砲のクーリック河渡



城壁の攀登

陣中風景



最初の慰問袋



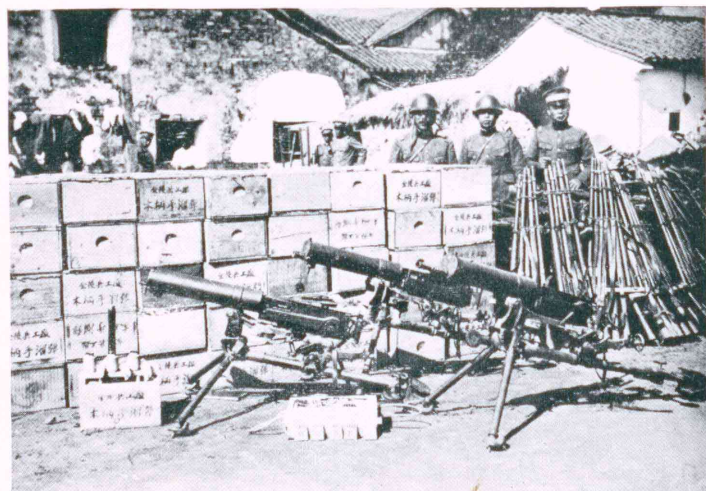
可憐な慰問使
(嘉定隊本部に於ける日本小学生生徒)



谷前聯隊長(第九師團參謀長)の來訪

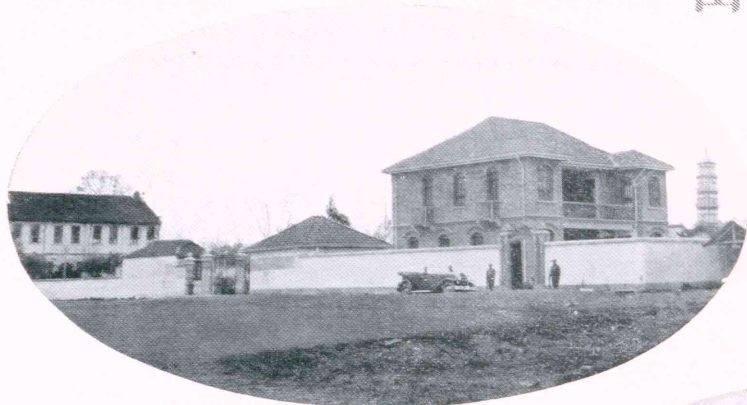


野戰の風呂



南嶺兵器的(嘉定城外にて)

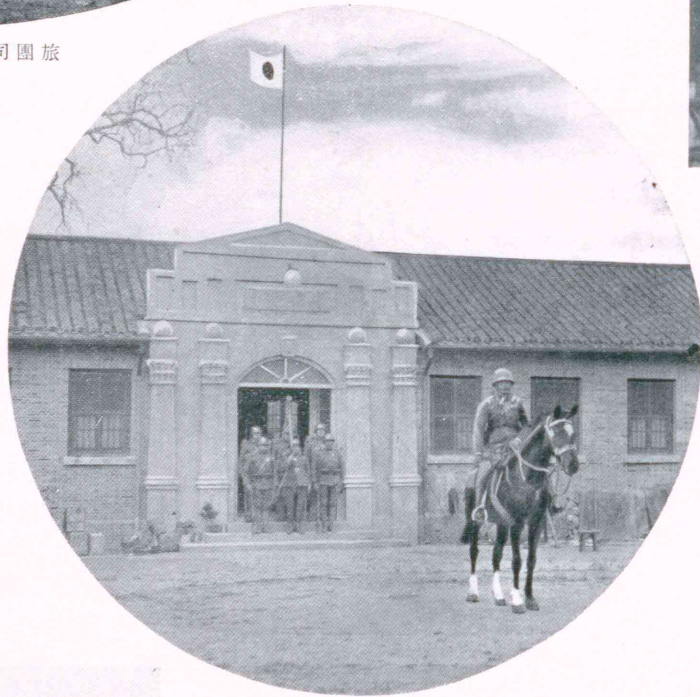
嘉定の思出



（左に見ゆる山砲隊） 旅團司令部



嘉定の南門



（高橋馬は高橋隊） 聯隊本部

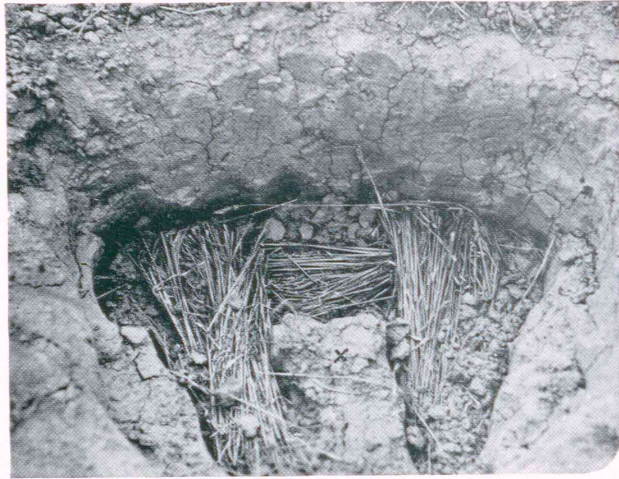


鹿舞ふ七重塔



クレーク上へ浮ぶ苦力家の住

支那軍陣地



各個膝射散兵壕
(す下を腰に部出突の印×みつを膝兩)



「クーリック」の從射設備



占領の後吳淞砲台

掩蔽部



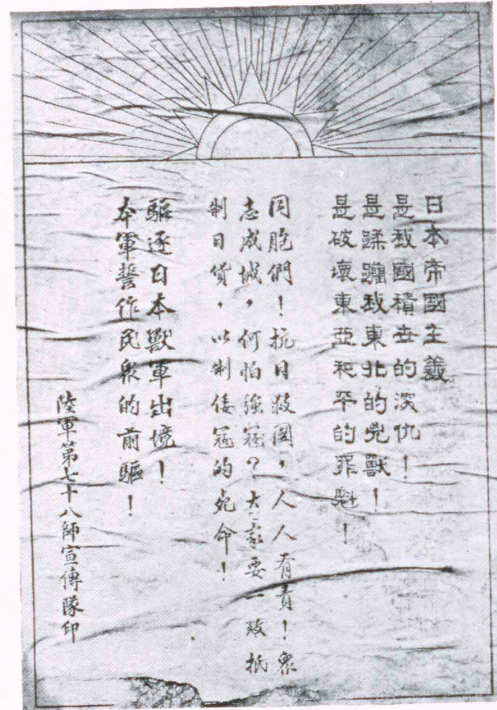
竹藪の前端重陣地



戰 傳 宣



一タスポ傳宣 (三の共)



一タスポ傳宣 (二の共)



を跡の傳宣日排のこよ見 (一の共)



一タスポ傳宣 (四の共)



民住るす堵安に告布軍本日

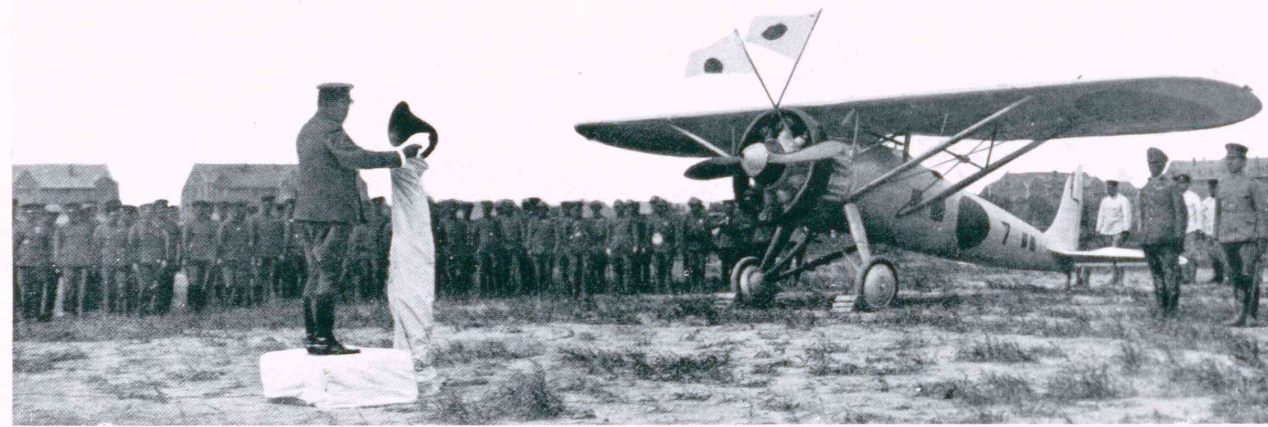
海上風景



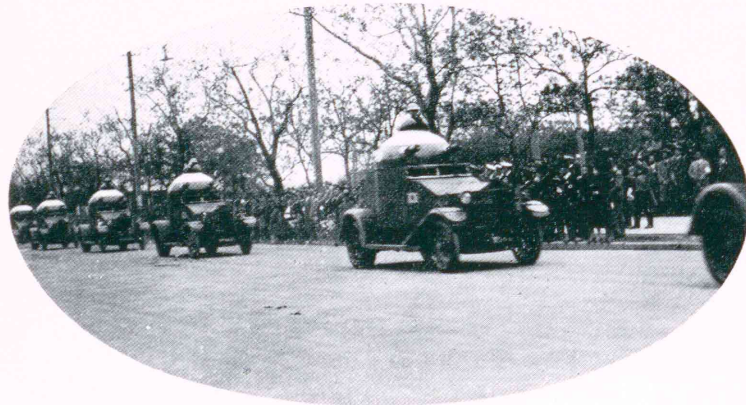
愛國機の前記念撮影 地方群馬縣人會
 操繼者 原田潔大尉



海上市街



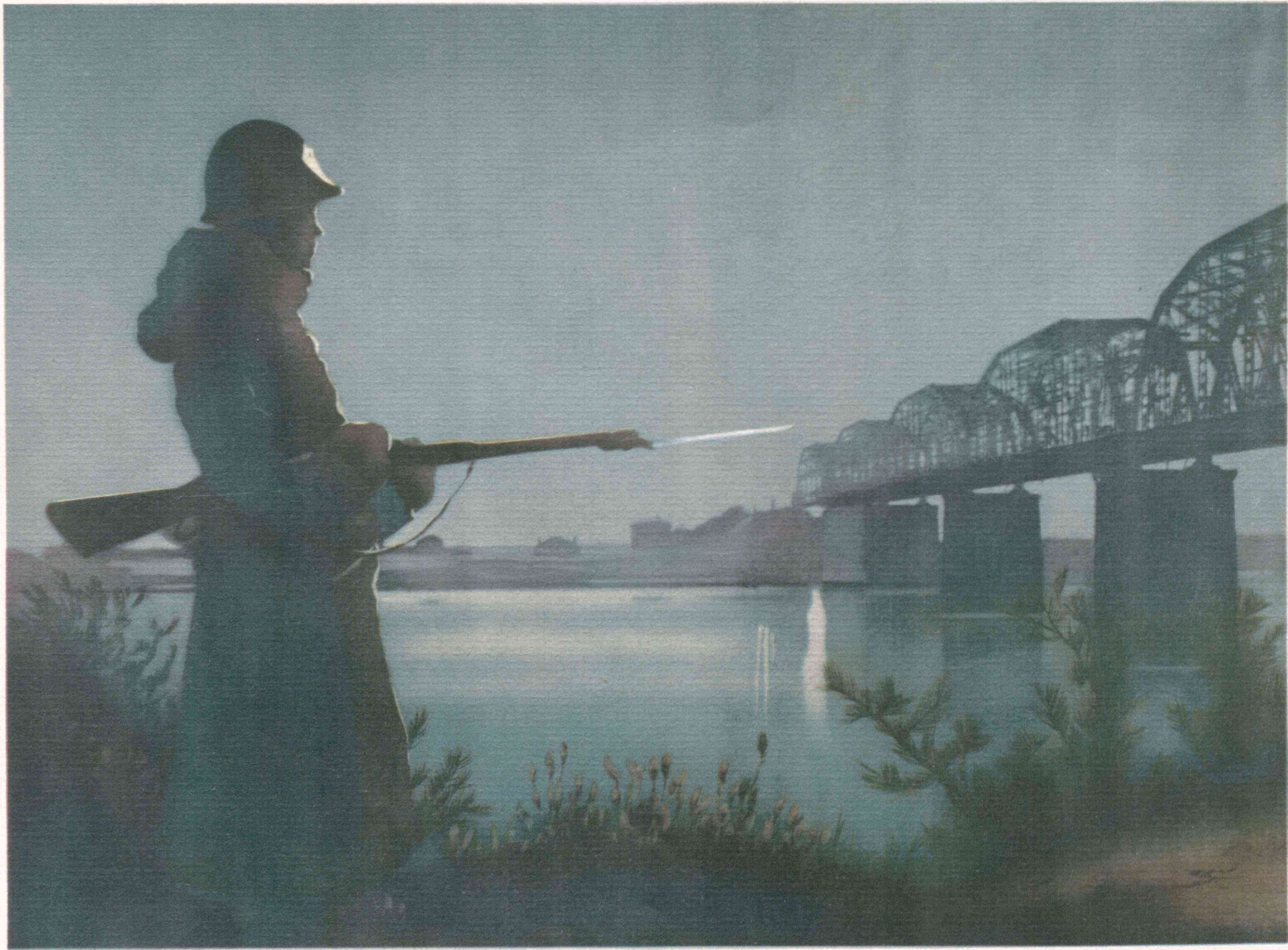
愛國機群馬號出征 (白川軍司令官の辭祝)



海上市内陸戰隊裝甲自動車隊の進行



天長節奉祝式場



下月の歩哨

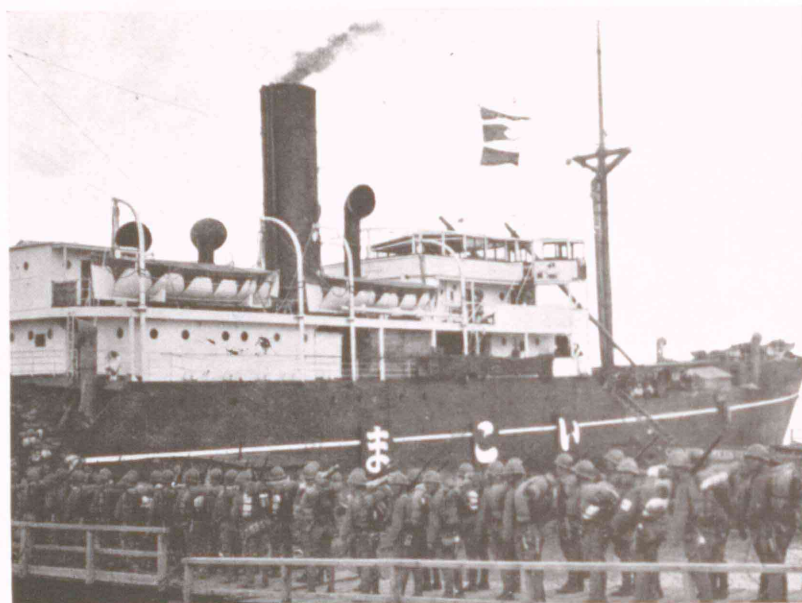
!!! へ 満 北



院寺央中ンビルハ



(驛ンビルハ) 著ンビルハ



船乗てに港吳 進轉



街市ンビルハ

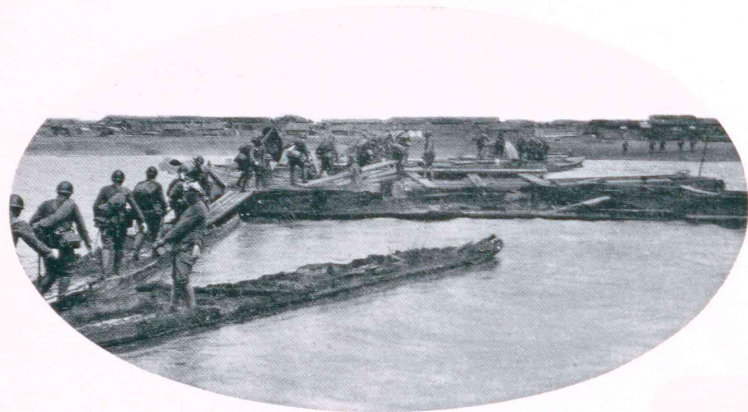


碑の士志兩川横・沖
外郊ンビルハ



陸上連大

戦 緒

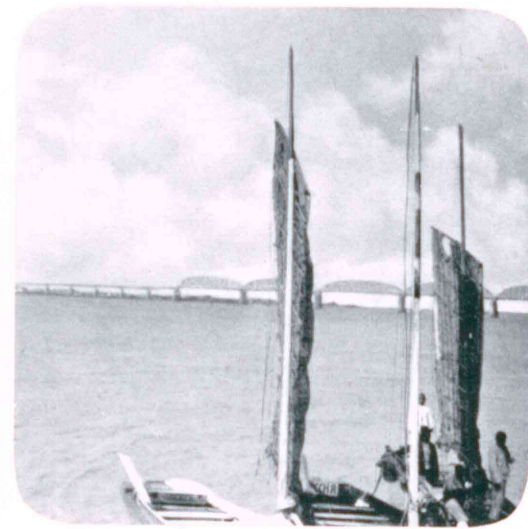


城入へ蘭呼てり渡を橋舟

闘戦の近附蘭呼



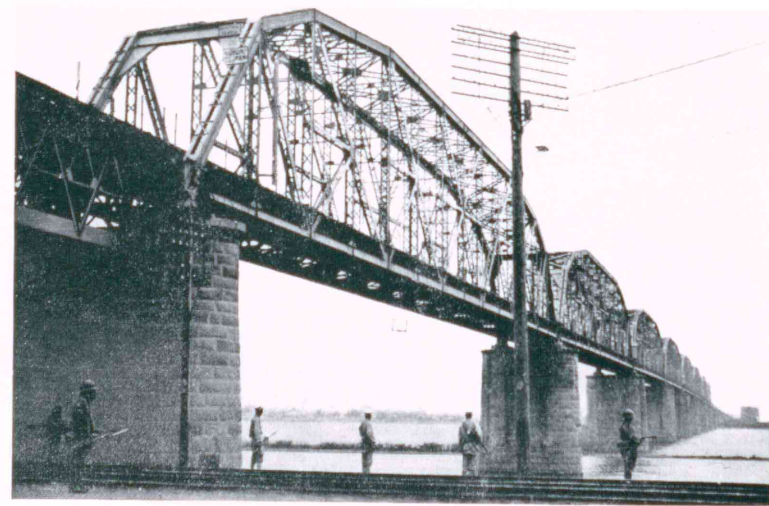
橋船河蘭呼しれらせ却焼時の却退敵
(隊大二第) 隊死決るあゝつし火消を



望遠の橋鐵大江花松



撃追ひ向に化綏を線海呼



(米千約さ長の橋鐵) へ蘭呼てり渡を橋鐵大

海倫入城



日滿國旗飄揚於海倫驛



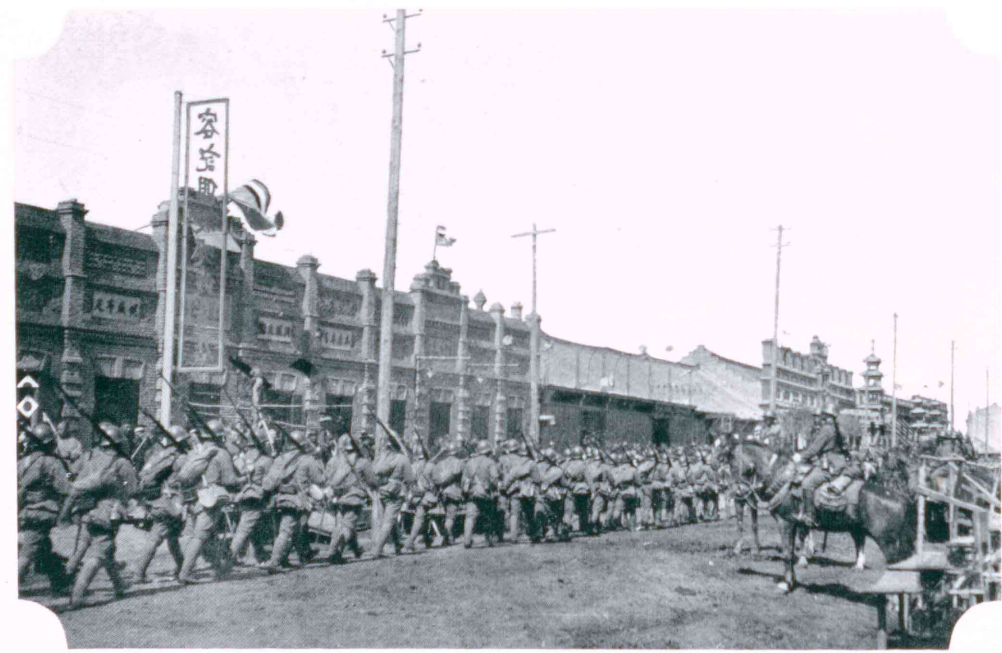
(三六七) 海倫城入城



匪首李青海邸宅內之聯隊本部



海倫街市中央擊燬之跡



海倫街市於分列式

伐討又伐討



河泥の河渡



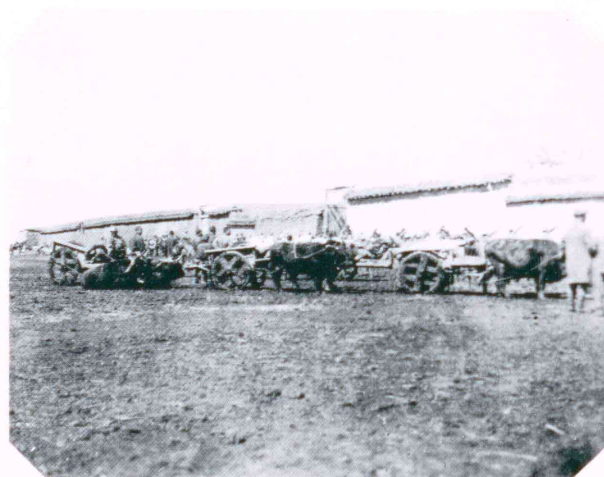
天主堂の内部



北海の天主堂



宿 營



支那部落の休息



二克山作戦

一の其 馬占山軍討滅戰



生別亦何如せん



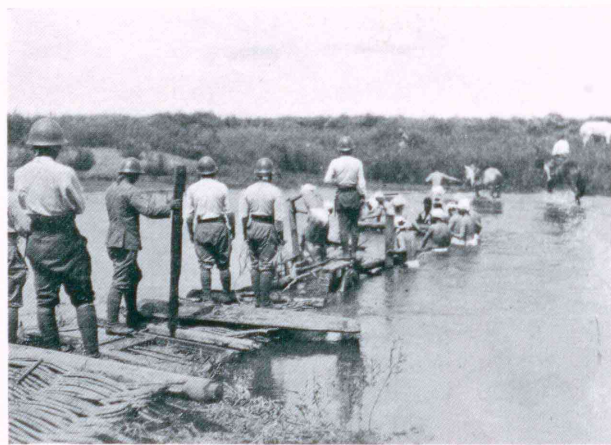
(地獄大の方東鎮古安) 何處で續く泥濁



馬占山軍の北進を拒止せしめ店



敵の遺棄したる兵器薬



海倫河の渡河



連日追撃に残り少なくなり炊食の最後集まきか

二の其 馬占山討滅戰



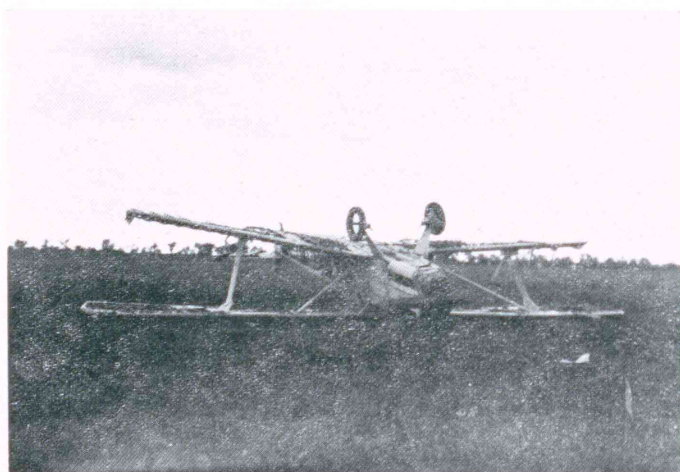
(てに店家割) 下投中空の秣糧



(村和廿) 部本隊聯るけに湧家張
地據根の蒿掃軍馬



(官副隊聯谷と長隊聯) 日一の湧家張

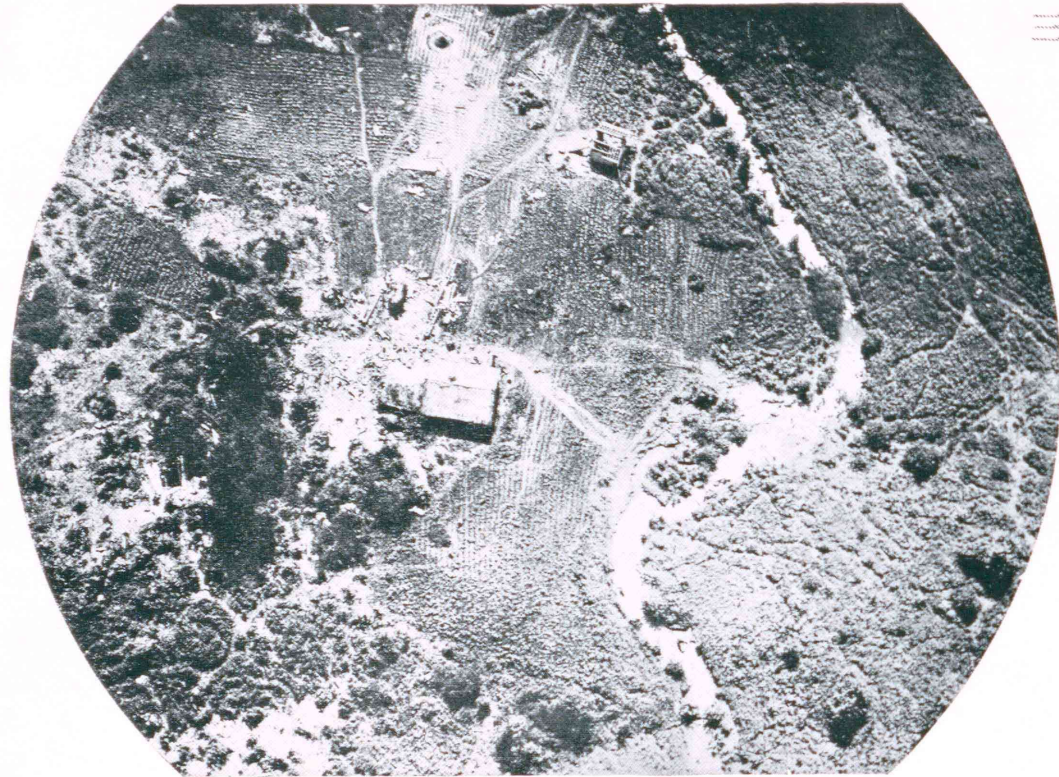


機察偵我しせ陸着時不に方南店家王



活生屋陋の店家王
(哨望展の上屋るれおかを面蚊防)

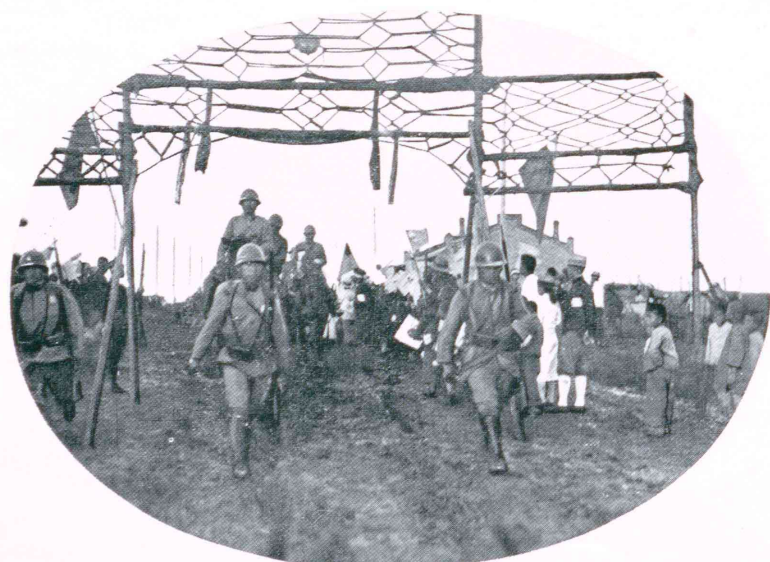
三の其 馬占山討滅戰



空中より見た馬占山最後の地



馬占山の最後
 (七月二十九日晩官邸東方寺門に最後)
 (試を扶けたる折矢に盡き遂に滅せしむ)



(八月二十二日) 武勳赫赫々々凱旋



戦跡の全上

馬占山の末路



長團師、るらせ検點を品獲函



品重貴の山占馬しせ獲函

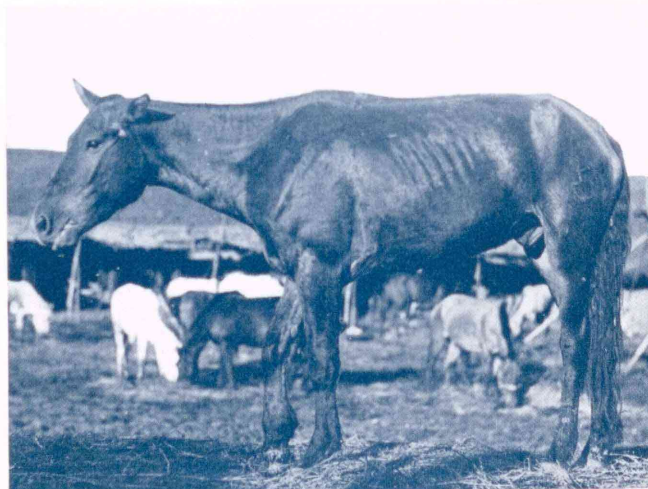
乘山占馬は錠・本三管級片阿・元千八万七十二幣紙圓十
 (個五章勳・夕十八百四貫五計本三十三金純・製金川馬)



山占馬雄の林縁

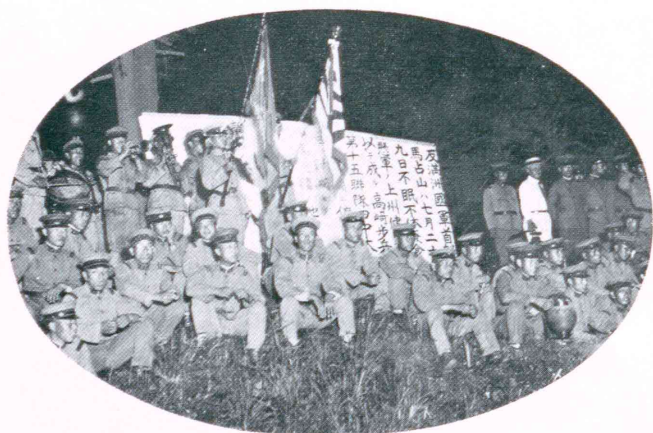
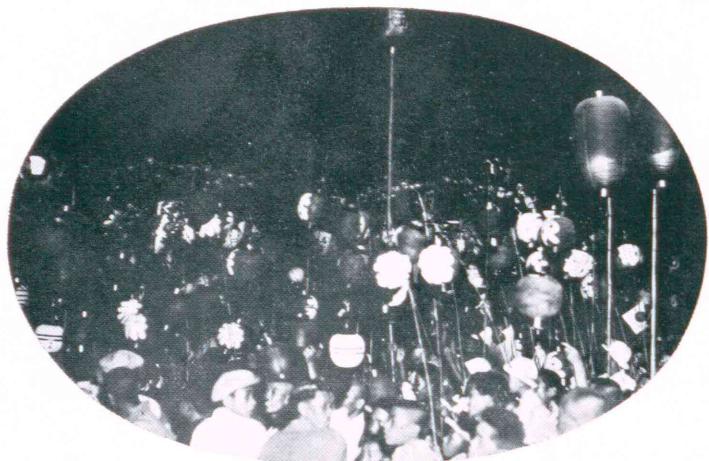


邸山占馬倫海、跡の華榮
 (部令司團旅賀平の後)



(るらせ獲函めたの軍我) 馬用乗の山占馬

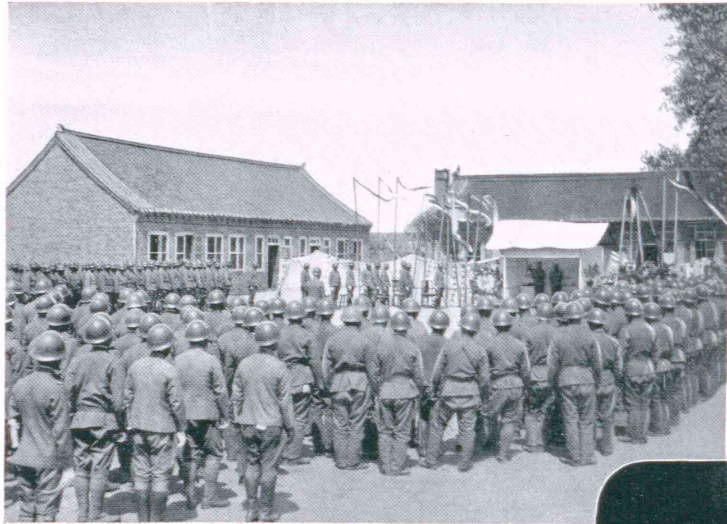
會賀祝大滅潰軍山占馬の地内



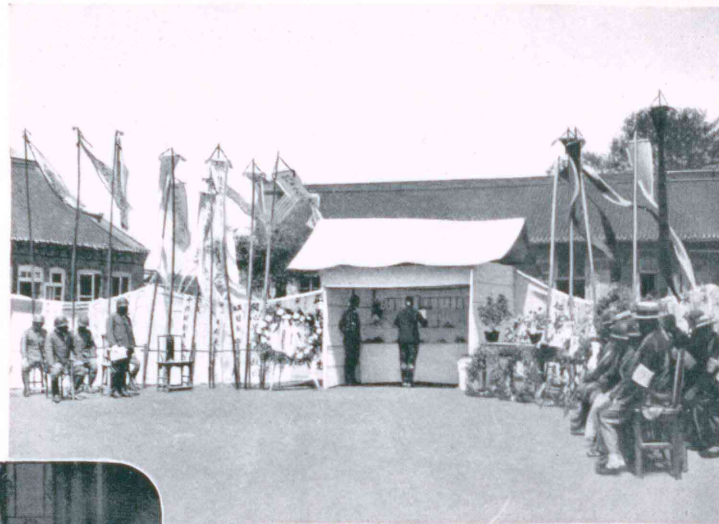
皇軍萬歲
 馬占山以下將士悉死了
 反動份子全打破了
 大家同胞們趕快感謝嚴
 在這個月二十日那天於海倫北首
 二十支別家店面上馬占山軍被日
 軍完全殺死掃滅了這傷天害理
 禍首馬賊想我們滿洲國五千萬同胞
 今後得真安居樂土希望大家同胞們起
 快攜手慶賀日本軍及江省軍愛民之威
 德也
 空 撰
 大正九年五月三十一日



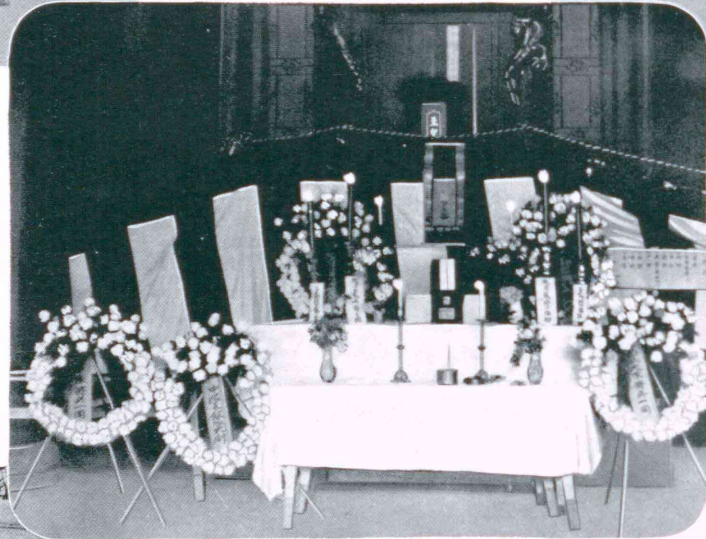
慰靈祭



（局育教倫海）景全場祭



辭弔の長隊聯士祭



壇 祭



侶僧國洲滿



祭靈慰の催主側國洲滿

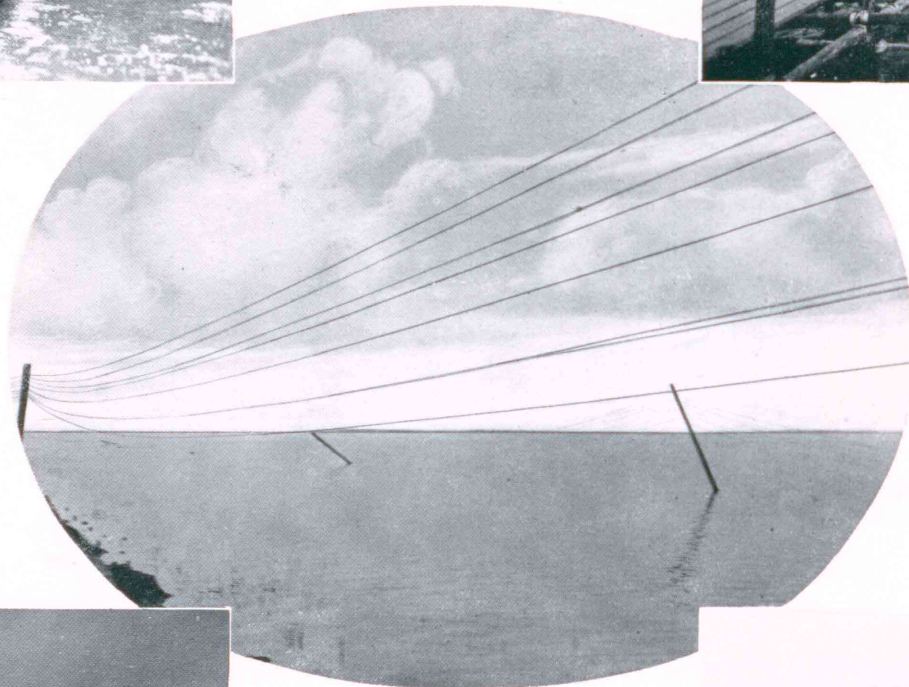
水 脅 威



水 脅 威 街市ニビルハの水



場船渡河蘭呼



近附江花松の水



近附甸家傳ニビルハ流濁の江花松



近附橋鐵河々泥の中舊復

別告隊部還歸



隊中二第にて台方四



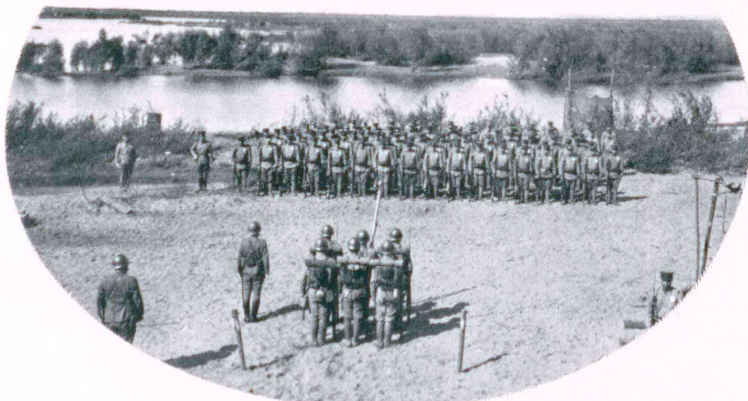
兵還歸力主隊大一第にて倫海



力主隊大三第にて化綏



てに前驛化綏



隊中九第にて畔々河泥

年周一發勃變事洲滿



るけ於に念記年週一變事洲滿
列行旗の徒生校學小國洲滿



(一タスホ傳宣) の見光曙の土樂道王



踊脚高物名洲滿



前部本隊聯 上全



るれ漲に和平

海倫警備の一



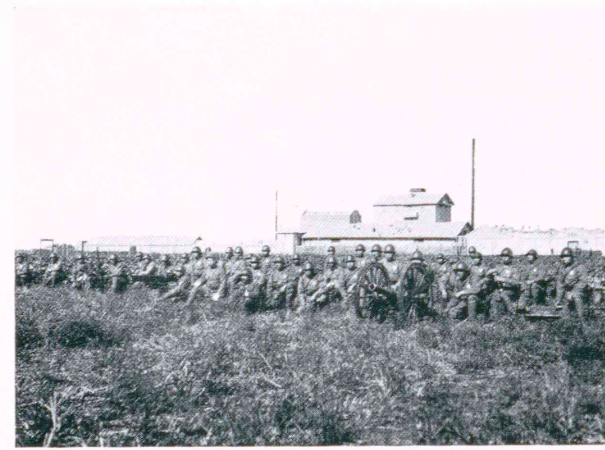
兵衛門北
 親の國會槍紅の餘百約明未日十月十
 子金隊中一第令司兵衛もるだけ受を撃
 (予退撃を之に遂開前名十下以兵等上)



隊中銃開機一第 所兵衛路字十中央



所兵衛門南



(りなと令兵隊砲兵歩は方後) 隊砲兵歩
 廠粉製

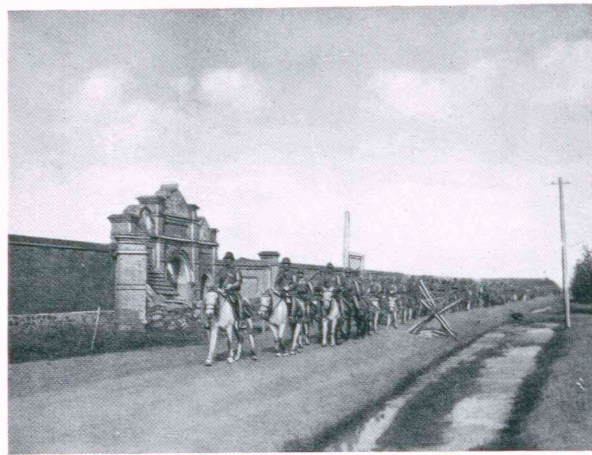


(街市倫海) 躍活の班信通



撃射の砲兵歩射曲

海倫警備其二



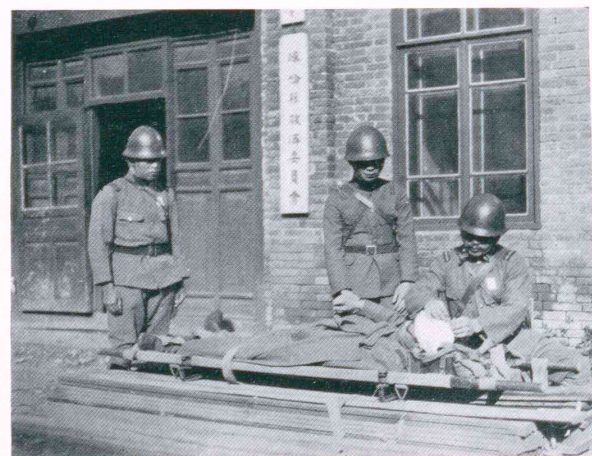
乘馬討伐編成隊 (佐中村種長隊) らせ



海倫野戰支庫



海倫市內便衣隊狩り



衛生部員活躍



蹄鐵工場

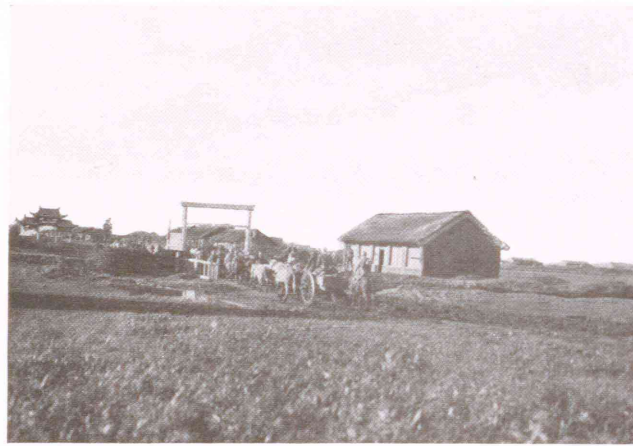
呼海海克線警備



步兵砲の活躍



(てに河河普克 隊中一第) 車列甲裝



(部本隊大二第) 望遠の北通



(鎮農興於) 隊馬乗るたし成編て以を馬獲鹵



(隊中五第) 隊備守店家蔡



動活の班線無



(長原村は頭先) 國戰の險伐討勇乘團師四十第るけ於に賦地方南河納夕日四月一十年七和昭

北 滿 風 景



水 汲 み



交通機關一輪車



海倫南大門
(中興部の上の平賀園長執筆のもの)



高梁實る頃



馬脚をぬす泥濘路



罌粟畑 (阿片はこれか作る)

!!! 冬 來 る !!!



自動車の討伐隊の出動
凍った北滿平原の自動車は槍舞台まで



(海倫聯隊本部) 討伐隊の集合



(討伐隊外長隊) 討伐隊の集合



海倫東大街

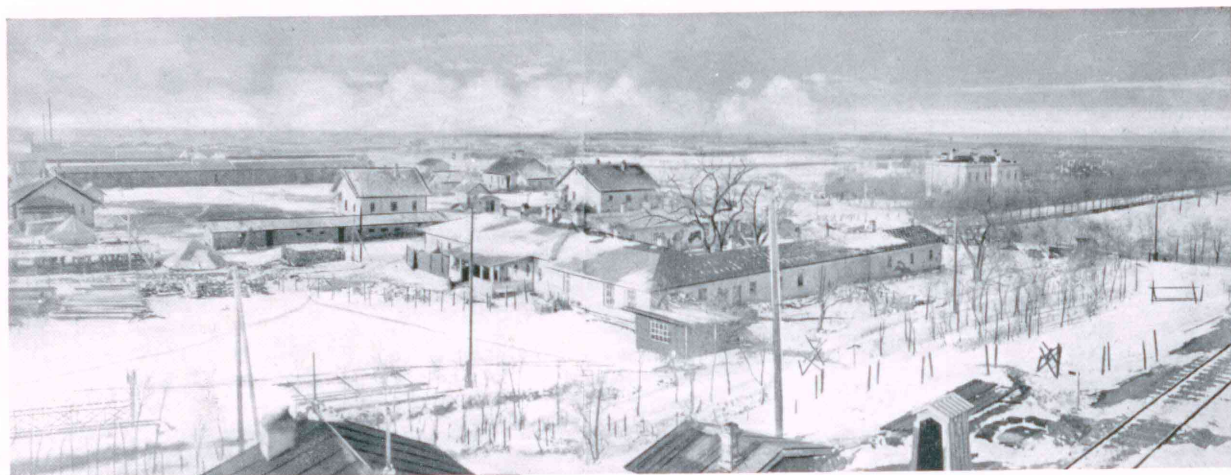


全上聯隊長の訓示

大興安嶺作戰の其一



大興安嶺目指して
 (一月廿二日突破を里數廿一)
 (午後嶺子附近の敵の背を追る)



作戰集結地富爾拉基市全景

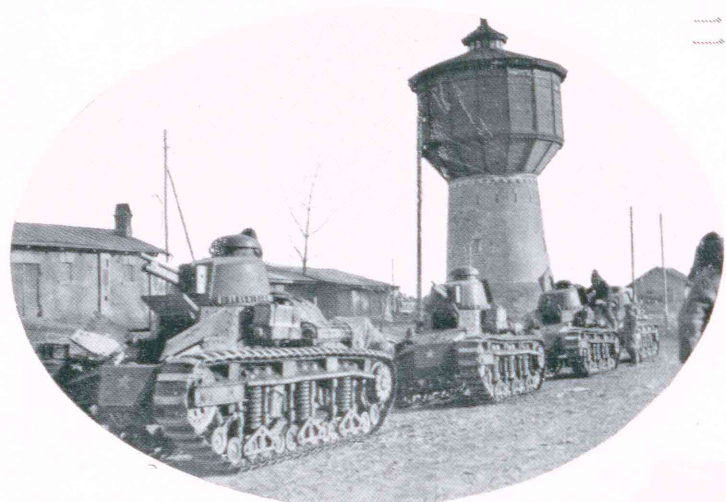


嶺子附近に於ける平賀支隊本部
 (右端平賀旅團長)



敵の背に進出せる自動車先遣隊(於六段)

二の其 戦作嶺安興大



(屯蘭札於) 進前の隊車戦



旗軍るけ於に驛漢思吉成



領占屯蘭札
(りせ領占を屯蘭札しりた據本の敵もく早日三月二十)

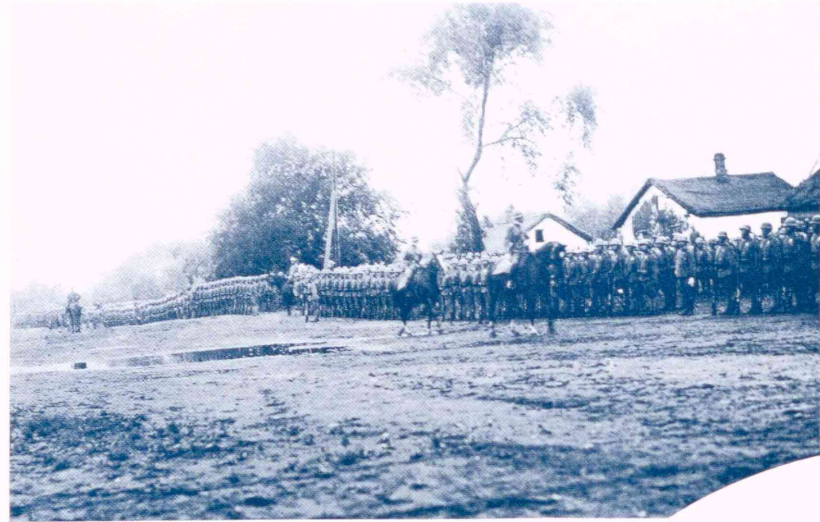


院病戦野の内車列



校將の力主隊聯るけ於に驛漢思吉成
(つび恩を圖雄の漢思吉成古往)

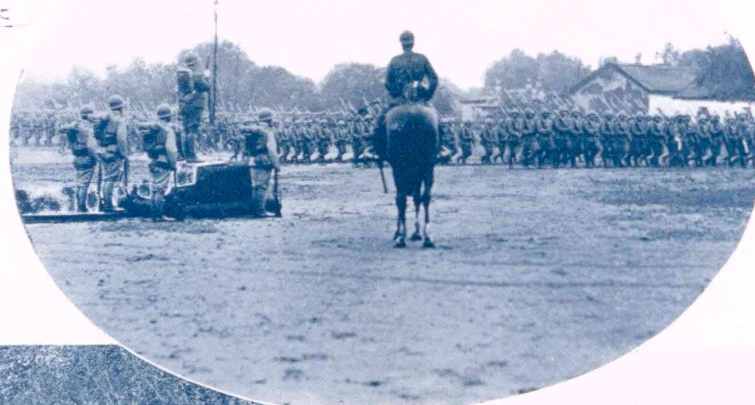
る 來 夏 り 去 春



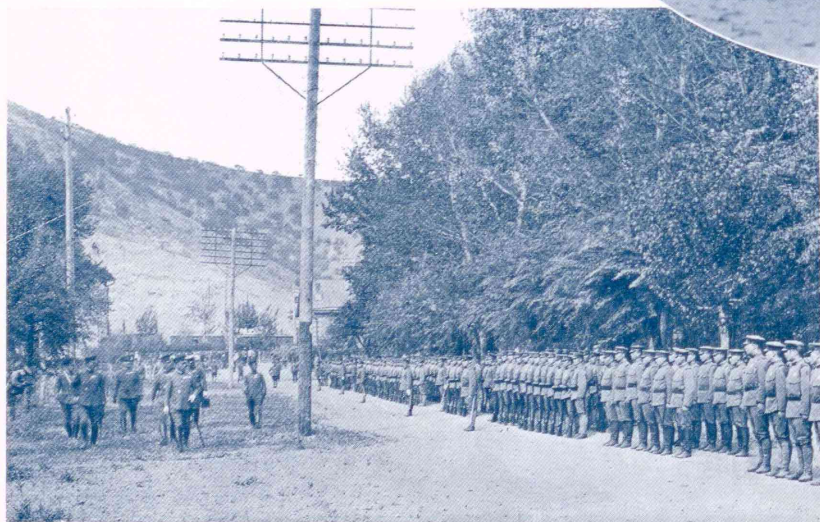
屯 關 札 て り 終 を 育 教 兵 年 初
兵 閱 の 長 隊 聯 て に



側 北 部 木 隊 聯 式 拜 遠 の 節 長 天



式 列 分 て し 對 に 旗 軍



(日 四 十 二 月 五) 閱 親 長 團 帥

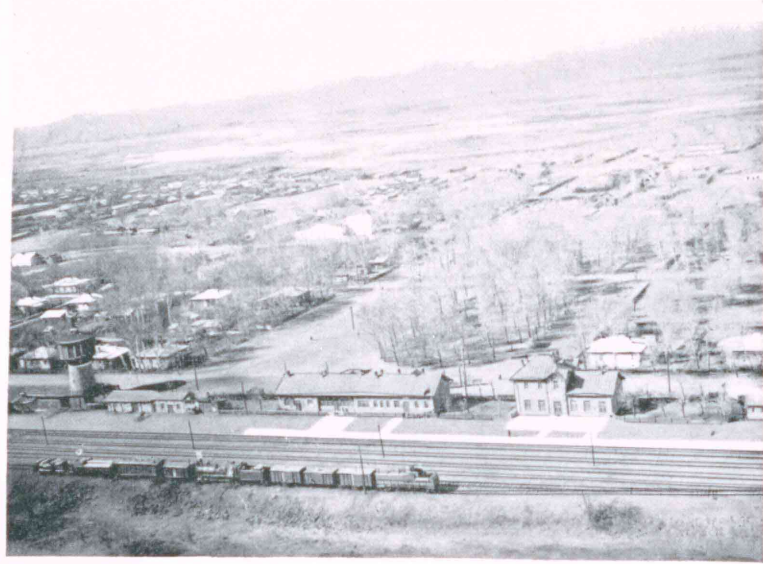


(訪 來 日 八 十 二 月 四) 摺 挾 の 團 間 慰 育 教 縣 馬 群

札蘭屯駐屯



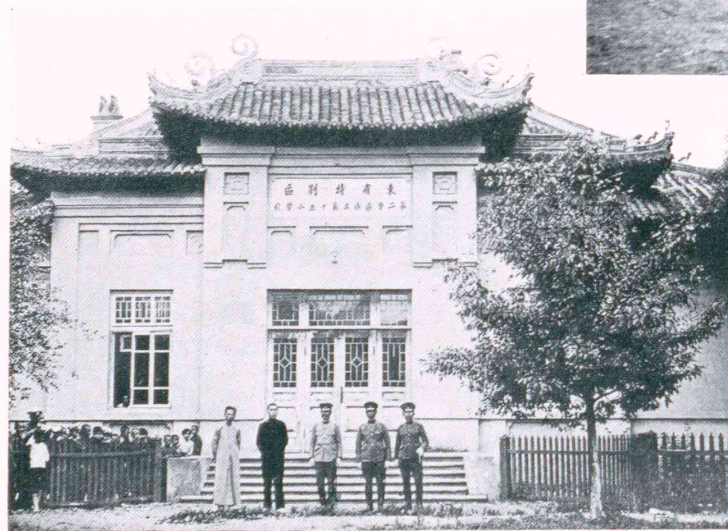
聯隊本部
(西側を流る雅魯河の支流)



札蘭屯市街及雅魯河
(東側高地より望む)



侍從武官御差遣
驛前に於ける聖旨傳達式

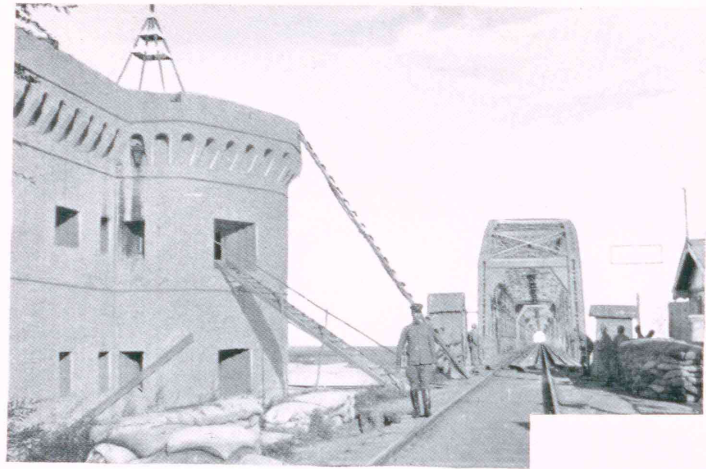


東省特別區學校



正月近し

備警の線沿路鐵東中



(基爾拉富) 備守橋鐵江嫩



隊備守山子嶺



隊備守溪々昂

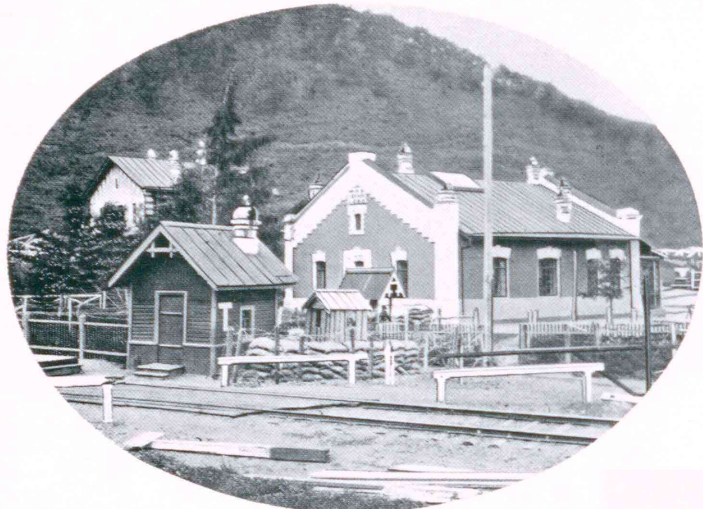


隊備守達安

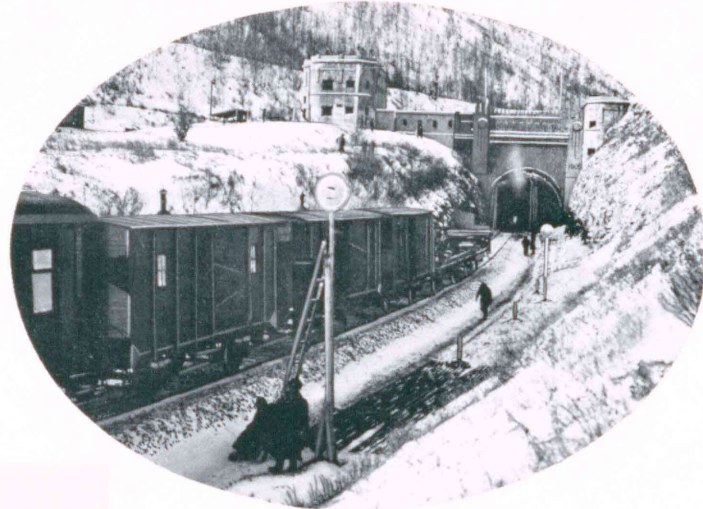


隊備守團克博

大興安嶺守備



トベヤリ守備隊



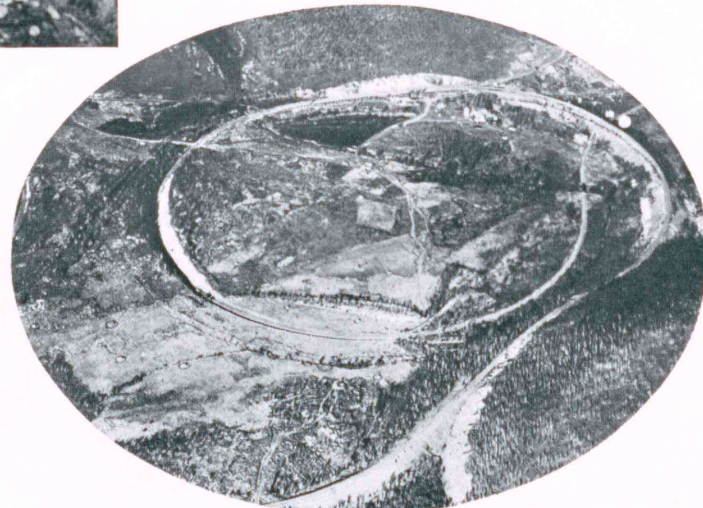
陸道東口



故荒木大尉の忠魂碑
(印×は當時の脱線位置)



零下四〇度の安興驛

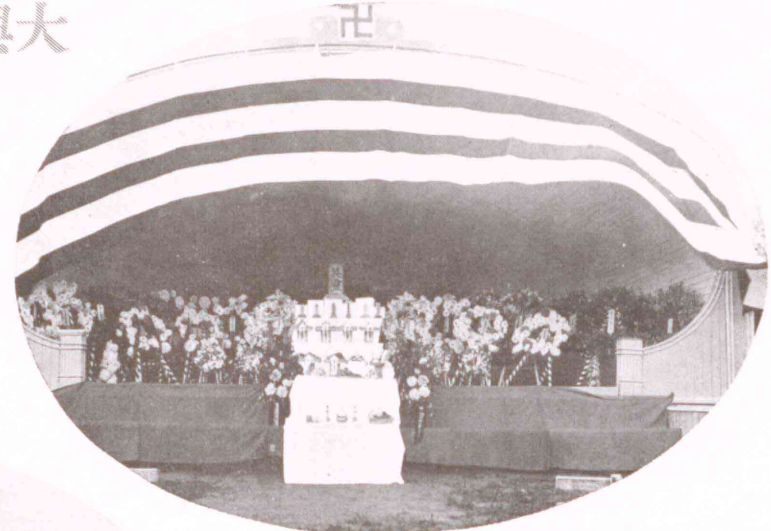


環狀線

大興安嶺下の慰靈祭



祭主の弔辭



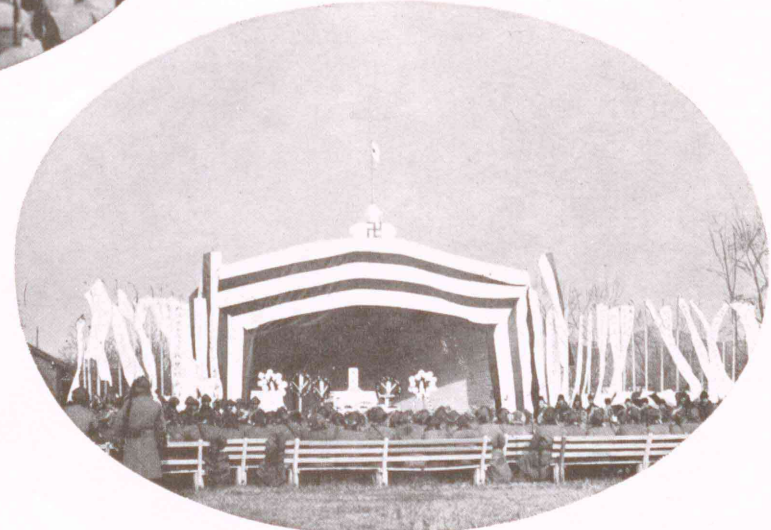
祭壇



英靈に捧げ銃



勇士の塚
(札園北屯方雅林小の丘なれどあれも)



祭場全景

遼西地方に於ける第一期検閲



大虎山 (第三中隊)



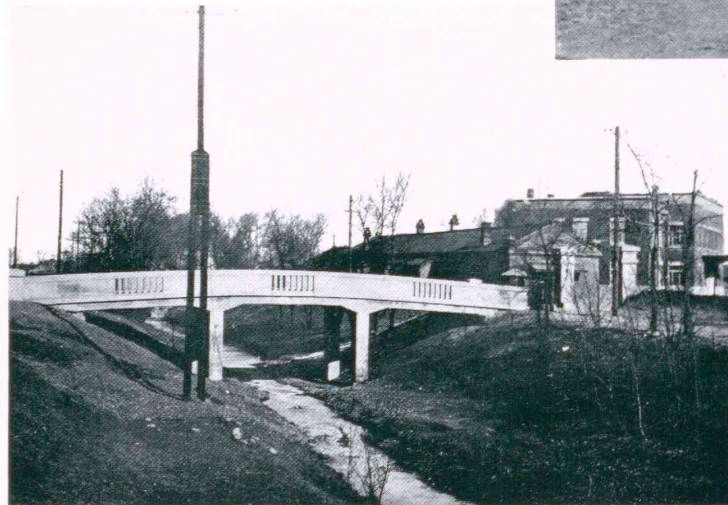
新立屯に於ける検閲官一行



溝村子 (第二中隊)



北口營子 (第五中隊)



最初教養地遼陽 (全營前)



大凌河 (第七中隊)

遼西警備



萬佛堂
 (義縣西方窟內約二千餘年前の
 彫刻を佛像一尊を蔵す)



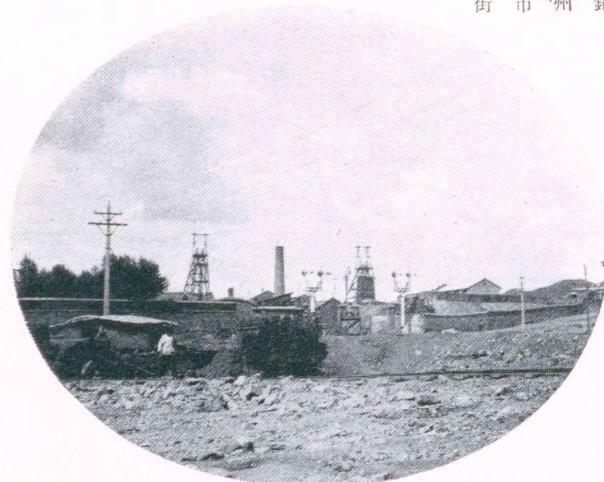
萬里長城山海關附近



盤山守備隊



錦州街市



北票炭坑
 (事變前まで學良の私所有のものなり)



(北鎮) 城壁に立つ歩哨

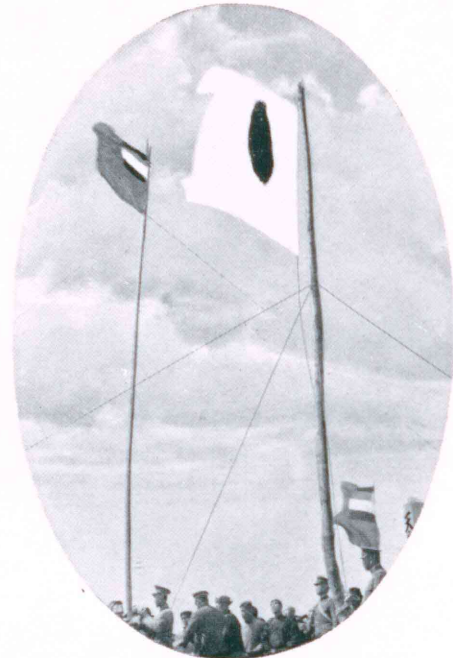


大凌河驛煉瓦壁上に見ゆ
 はる中村少佐記念碑

郷 和 平



り踊の人古蒙



揚掲旗國滿日



月日閑中陣



(爾貝倫呼) 牧放の羊



(居住の民の牧遊) 包古蒙



民の牧遊

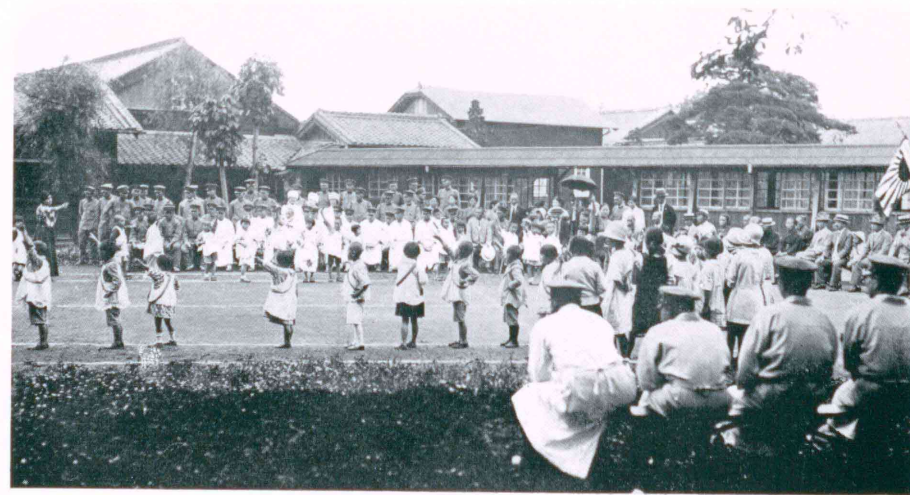
激感の兵病傷



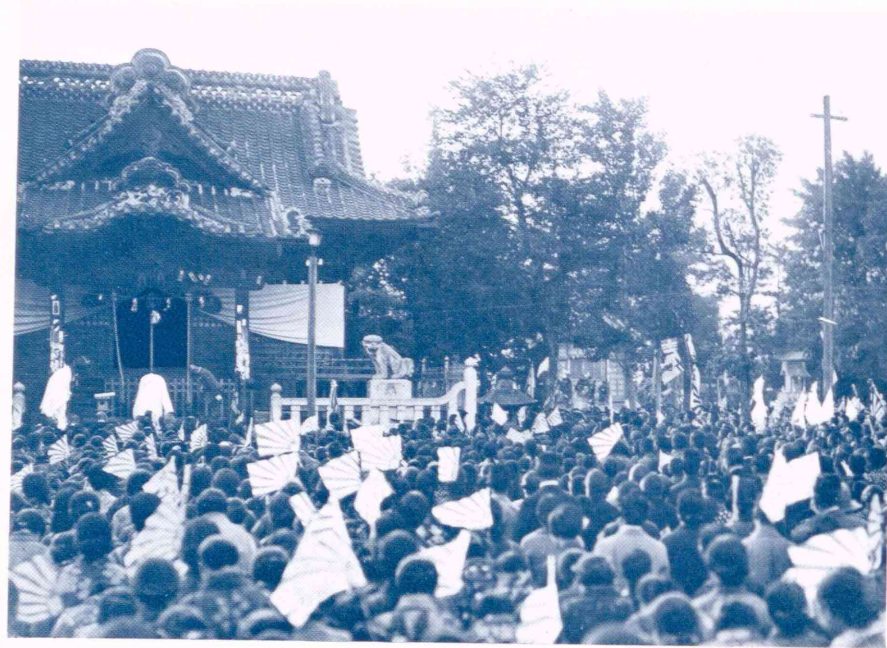
舞見御院病成衛崎高の下殿妃宮本梨



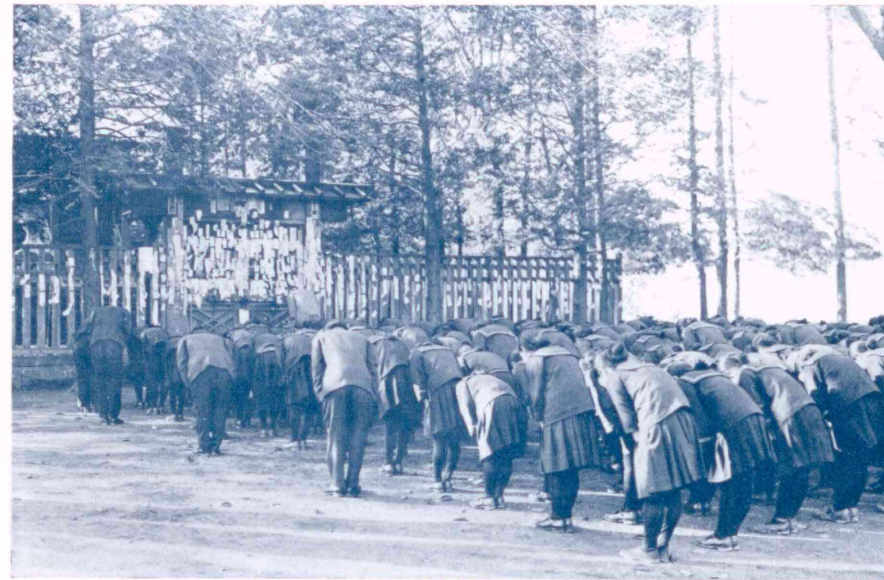
團問慰の童兒な憐可



び喜の中陣と援後の後銃るな誠熱



社神崎高願祈捷戦



てり祈に神を運武



!!顔なげし嬉の此よ見

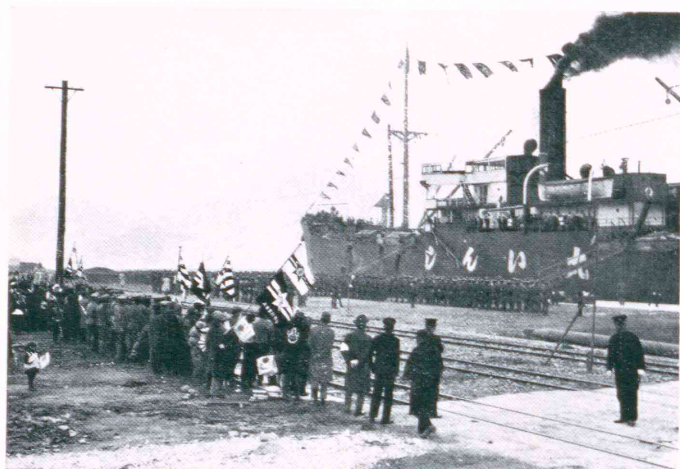


配分の袋問慰中陣



々人るせ躍活に送發品問慰

凱 旋



陸上賀敷



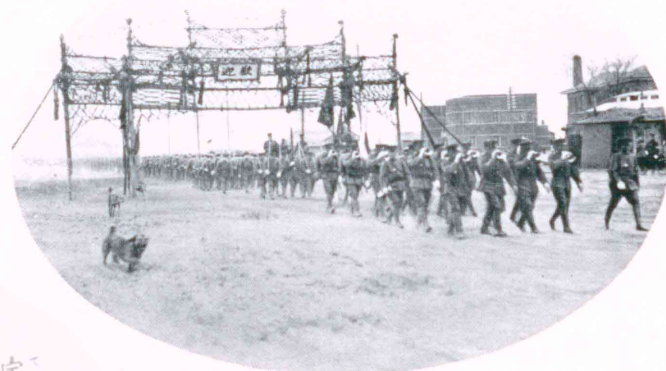
を歩一第に國母のしかつな



(校學各内市) 波の旗賀祝旋凱



(に後を營兵南ハハチ) てし果を任重



!!よルハ、チばらさ



てに州定鮮朝途の旋凱

凱 旋



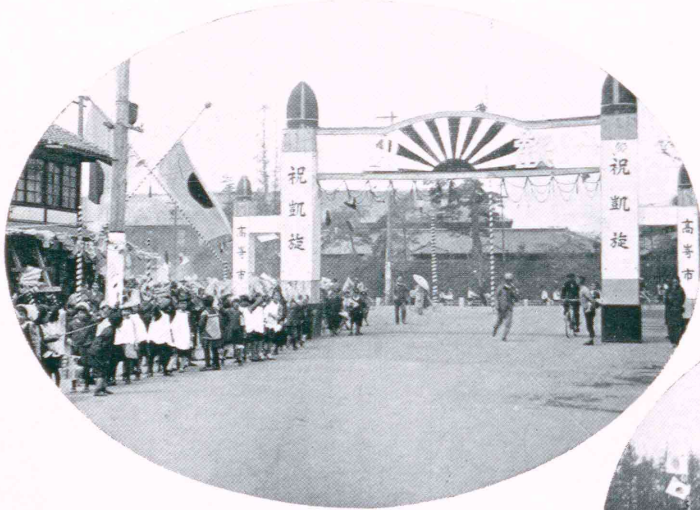
市民の提灯行列



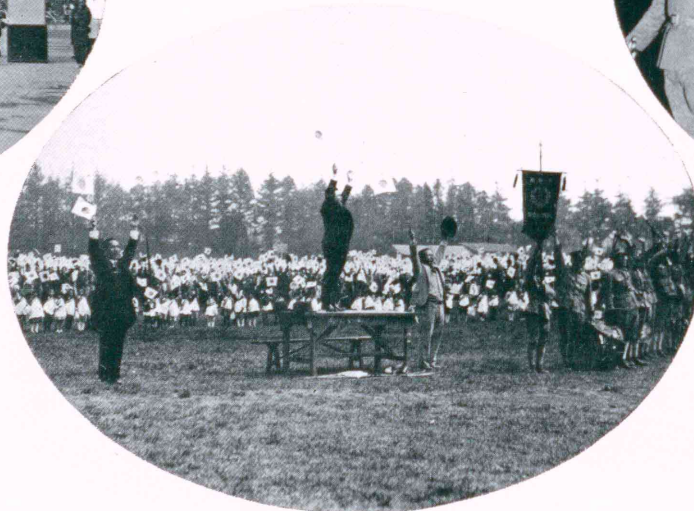
軍旗を以て無事凱旋報告する山聯隊長



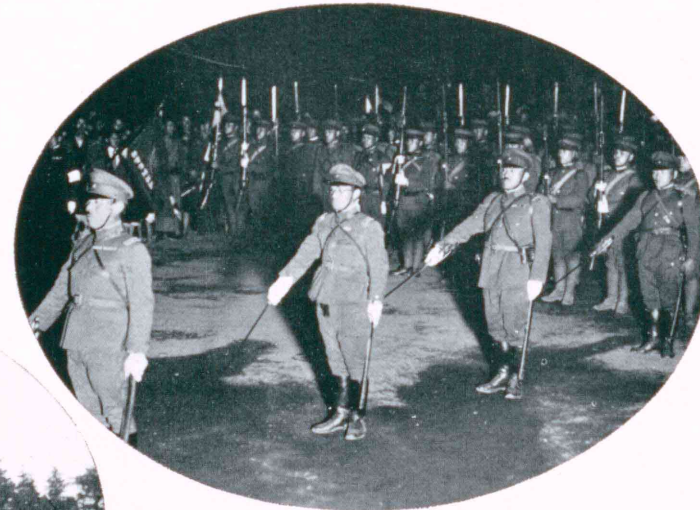
旅團司令部及第一大隊
(前方に平賀旅團長)



營門前の凱旋門



感嬉に満ちたる市民萬歳



英靈殿に参拜する第二大隊



團校將及長團旅師の時當旋凱

聯隊作戰行動一覽

昭和七	昭和八	昭和九
二二三	二二一	二二二
三	二	三
五	一	二
三	二	三
三	三	四
一三	四	五
一四	五	六
二	六	七
六	七	八
一〇	八	九
一一	九	一〇
一一	一〇	一一
一〇	一一	一二
一一	一二	一三
一二	一三	一四
一三	一四	一五
一四	一五	一六
一五	一六	一七
一六	一七	一八
一七	一八	一九
一八	一九	二〇
一九	二〇	二一
二〇	二一	二二
二一	二二	二三
二二	二三	二四
二三	二四	二五
二四	二五	二六
二五	二六	二七
二六	二七	二八
二七	二八	二九
二八	二九	三〇
二九	三〇	
三〇		

動員下令
高崎出發 全七日 大阪港出帆
吳淞上陸
嘉定入城 第一線ノ警備ニ就ク
第一次編制改正
北滿轉進ノタメ吳淞乗船 全八日 大連上陸
新聯隊長甘粕大佐奉天ニテ著任
哈爾濱著 全地ノ警備ニ就ク
全二四ニ亙リ呼蘭南方地區ノ戰鬪
寬字八井附近ノ戰鬪
海倫入城
全一七日克東作戦 全一三日時泉鎮南方通肯河畔ノ戰鬪
全二九ニ至ル海倫東北方地區ニ於ケル馬占山軍主力ノ討滅戰
前十八井及後十二井附近ノ殲滅戰(第一大隊主力)
第二次編制改正開始
第三大隊内地歸還
海倫市街戰
至一八日三道鎮附近ノ戰鬪(谷支隊)
大興安嶺作戦參加ノ爲海倫出發富拉爾基ニ集結
札蘭屯入城
濟心河谷ノ戰鬪(谷支隊)
凹龍溝附近ノ戰鬪(遠藤討伐隊)
第三大隊到着
南滿遼陽ニ於テ初年兵教育開始
第三大隊四洮洮昂線警備ニ就ク
初年兵教育隊遼西地方警備ニ就ク
至十九日遼西地方第一期檢閲實施
初年兵札蘭屯到着 同二六日軍旗ニ對シ分列式ヲ舉行ス
軍旗富拉爾基ニ移動 聯隊新配備ニ就ク
字字十一井ノ戰鬪(谷内討伐隊)
軍旗齋々哈爾ニ移動
初年兵齋々哈爾到着 教育開始
至一三各警備隊大討伐
至二六日初年兵第一期檢閲
聯隊軍旗ノ下ニ集結ヲ了ス
内地歸還命令下ル 聯隊本部齋々哈爾出發
本部高崎歸着 第一大隊五、二四日高崎歸着
復歸完結

戰病死者人名表

步兵第十五聯隊

上海之部

姓名	階級	死因	備考
坂井佐太郎	上等兵	戰死	
田島米一郎	上等兵	戰死	
小竹慎三郎	上等兵	戰死	
梅田宗三郎	上等兵	戰死	
落合惠作	上等兵	戰死	
高橋 敏	上等兵	戰死	
龜田恒雄	上等兵	戰死	
新井榮太郎	上等兵	戰死	
松島吉太郎	上等兵	戰死	
鬼方昌雄	上等兵	戰死	
後藤千二	上等兵	戰死	
山口理一	上等兵	戰死	
山本鋼次郎	上等兵	戰死	
下境公平	上等兵	戰死	
富澤稔雄	上等兵	戰死	
水我福松	上等兵	戰死	
清水次郎	上等兵	戰死	
加藤五郎	上等兵	戰死	
善養少助	上等兵	戰死	
淺見清一	上等兵	戰死	
阿部文衛	上等兵	戰死	
小林兵市	上等兵	戰死	
矢島定雄	上等兵	戰死	
池森武雄	上等兵	戰死	
小此木果	上等兵	戰死	
齋藤謙郎	上等兵	戰死	
竹内 博	上等兵	戰死	
春山四郎	上等兵	戰死	
宇敷一郎	上等兵	戰死	
鹽野方治	上等兵	戰死	
小川徳太郎	上等兵	戰死	
岡島和孝	上等兵	戰死	
今井富雄	上等兵	戰死	
田中延一郎	上等兵	戰死	
松井政二	上等兵	戰死	
八木原角二	上等兵	戰死	
澤澤真雄	上等兵	戰死	
小澤茂富	上等兵	戰死	
萩原本作	上等兵	戰死	
山田百次	上等兵	戰死	

北滿洲之部

姓名	階級	死因	備考
市川友治	上等兵	戰死	
石上直司	上等兵	戰死	
長澤清三郎	上等兵	戰死	
中島 榮	上等兵	戰死	
中島 三	上等兵	戰死	
中島 榮	上等兵	戰死	
佐藤直衛	上等兵	戰死	
佐藤福松	上等兵	戰死	
新井長二	上等兵	戰死	
須水金一	上等兵	戰死	
内海 渡	上等兵	戰死	
須藤伊三郎	上等兵	戰死	
富岡島松	上等兵	戰死	
神保忠太郎	上等兵	戰死	
金井政夫	上等兵	戰死	
須藤嘉久壽	上等兵	戰死	
田村福二	上等兵	戰死	
宮岡福次郎	上等兵	戰死	
笠原嘉市	上等兵	戰死	
島田力藏	上等兵	戰死	
船津次郎	上等兵	戰死	
清水宗太郎	上等兵	戰死	
田村唯一	上等兵	戰死	
川原勝太郎	上等兵	戰死	
小野又一	上等兵	戰死	
藤 茂	上等兵	戰死	
藤 茂	上等兵	戰死	
吉澤正一郎	上等兵	戰死	
成田節之助	上等兵	戰死	
岩崎六郎	上等兵	戰死	
狩野 健作	上等兵	戰死	
武井秋雄	上等兵	戰死	





步兵第十五聯隊出征記念寫真帖

編纂 步兵第十五聯隊

聯隊長	高橋大佐
"	甘粕大佐
"	役山大佐
編纂主任	清水中尉
聯隊旗手	糸日谷中尉
"	丸山中尉
"	德永中尉
"	金井少尉

陸軍御用達

高崎市新紺屋町二九

製作者 日之出屋商店 柳 嘉男

東京市神田區仲町一丁目一

印刷所 東京圖案印刷株式會社

東京市神田區仲町一丁目一

印刷者 長井秀衛

不許 複製

昭和九年九月十日 印刷
昭和九年九月十五日 發行

非賣品

